

Vol. **185** 2023.夏



特集

《令和5年度》定時総会

連載

【頑張る企業訪問記】

株式会社 岡本建設

涼
げな装いに
暑さも和らぎます。



一般社団法人

日本木造住宅産業協会

CONTENTS

木 芽 Vol.185

夏号

令和5年(2023年)
7月20日発行

折々のひとひら 1

特集 令和5年度定時総会を開催 2

木住協NOW 「木造軸組工法による耐火建築物設計マニュアル講習会」実施 10

令和5年度 第1回「住まいのトレンドセミナー」 11

連載 会員会社ニュースがんばる企業訪問記／株式会社岡本建設(山口県) 13

木住協NOW 第26回「木のある暮らし」作文コンクール募集のご案内 17

2023年度(第23回)木造ハウジングコーディネーター講習会および資格試験の開催概要 18

FOCUS 公的統計データから『見える』建築物木造化の動向 19

連載 日本の世界遺産探訪／長崎県 大浦天主堂 21

FOCUS 会員会社ニュースがんばる企業 近鉄不動産株式会社 23

木住協NOW 21都府県と「木造応急仮設住宅に関する協定」を締結 25

支部だより 北海道支部 視察レポート(北海道支部) 26

第36回定時支部総会開催される(中部支部) 27

木住協NOW 新専務理事紹介 31

新規会員紹介 32

連載 木の匠 Historia／蘆花浅水荘(滋賀県大津市) 33

『再』・・・「旅」をもうひと廻り

ふたたび・・・は、静かだった今朝までの水面に、たぐれる昔の一点を呼び興してくる。世界の扉も開け、人生の空気が入れ替わりはじめていた。ここしばらくの冬眠から私たちを解き放つかのように、ひとり一人が、その「ふたたび」の扉を開けはじめようとしている。

和語『ふたたび』とは、重ねてふたたびする、という原義であり、「たび」は「旅」の意味であろうともされている。つまりは、旅を、もうひと廻りという意を内包している。

「ひとつ」「ふたつ」「みつ」と、青空に舞い上がる紅白の玉を、切れ切れになりそうに、私たちは数え叫んできた。ひとつとは、人が「ひとり」から派生。ふたつは、「増ゆる」意。みつは、「満つる」意。古への人々は、算木を置いて数を数えたり、縄目で数を記したりと、様々な形式で、数の存在や重なっていく事実を録そうとしてきた。森羅万象と共に生きぬく人々の思想の根底には、人生は、一度きりしかないが、その一回性であるからこそ、その中で挑める「ふたたび」という旅に望んできたのではない。生命の一回性の中でこそその尊さ。

漢字『再』は、象形文字。組み紐の末端の形である「冉」の上下に「一」を加え、折り返しの意味とし、組み紐が中央部から両折した形のものであることを示している。織物に関する漢字である。布帛を折り返す・・・人生を折り返していく。

数年の扉を、昨日開めたかのように軽やかに開ける人もいれば、四半世紀前の旅の途中の扉を、共に開けはじめようとする人達もいるかもしれない。

それぞれの「たび」の、歩み出しとなる夏を願っている。

書家・文字文化文筆家 宇佐美志都



一般社団法人 日本木造住宅産業協会
令和5年度 定時総会 及び 功労者表彰式

令和5年度
定時総会を開催

一般社団法人 日本木造住宅産業協会は、さる2023年5月25日に、東京都港区元赤坂の明治記念館にて、令和5年度定時総会を開催した。定時総会では、①令和4年度事業報告に関する件、②令和4年度収支決算に関する件、③役員の選任に関する件—の3議案を審議したほか、令和5年度事業計画及び収支予算に関する報告も行い、それぞれ満場一致で原案通り承認した。

役員の選任では、理事27名、監事2名の任期が令和5年度定時総会をもって満了するため、「役員候補者(案)」により選任を求め、新たな8名の理事を含む29名の理事と2名の監事を選任した。開会のあいさつに立った市川会長は、本年4月で設立37年目を迎えたことについて、会員、関係各位への長きにわたる協会活動への協力にまずは感謝の意を述べた。続けて、ロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、昨今の世界情勢に触れ、先行き不透明な状況が続いているとしながらも、日本経済に関しては人の動きが活発化しており、賃上げの波及や株価の上昇もあり、持ち直しの兆しが出てきているのではないかとの見方を示した。そうした中で、住宅業界においては、「子どもエコすまい支援事業」などを含む「住宅省エネ2023キャンペーン」が開始され、住宅業界への追い風になることへの期待や、木材利用の促進による脱炭素社会に向けたGXの加速化、さらにはク



開会の挨拶を行う市川会長

リーンウッド法改正等による対応を求められるなど様々な変化を求められる業界の現状について触れながら、今後ますます「木」を扱う協会事業を通じて脱炭素・循環型社会への取り組みを進めるとの決意を語った。定時総会終了後は、功労者表彰式が開催された。また、会場を移して理事会、記者会見も開催され、今年は令和元年以来、4年ぶりとなる懇親パーティーも開催された。定時総会に出席した会員や来賓、関係諸団体の幹部などが多数参加し、久々の華やかな懇親の場が持たれた。

GXの加速化、子どもたちのための住環境、地方創生等— 果たすべき役割を再認識して取り組みを進める

開会あいさつの中で、市川会長は、木住協の今後の活動指針や、活動意義について、以下のように述べた。

市川会長「当協会は設立以来、木造による質の高い軸組工法住宅や建築物の開発と普及を進めておりますが、今後も会員の皆様と一緒に、環境にやさしい「木」を扱う協会事業を通じて、脱炭素・循環型社会への取り組みを進めて参ります。

さて、今年度『子ども家庭庁』が発足しました。家族に見守られて子どもたちが健やかに育つ場が住宅であり、これに木育の観点を加味すれば、安心安全で質の高い住宅や住環境を木造で実現していくニーズがますます高まります。子どもの目線からも、住宅産業の果たすべき役割を再認識して臨みたいと考えております。

当協会は10支部体制となっており、各支部において地方の会員の意向を汲んだ地域貢献活動も展開してまいります。木造応急仮設住宅や木材利用促進協定といった共通課題だけでなく、人手不足や空き家問題など地域ごとの様々な課題があり、都道府県・市町村レベルまで、きめ細かく官民協力で地域活性化に対応できるよう、引き続き当協会の本部ならびに支部の体制強化に努力してまいります。」

住宅建築物における木材利用、国産材利用の一層の拡大を目指す

続いて、来賓である国土交通省 住宅局 山下英和住宅生産課長が祝辞を述べた。初めに、参加者および木住協会員の様々な立場からの行政への協力に感謝を述べ、「日本木造住宅産業協会におかれましては、長年にわたり、地域に根差し、環境に配慮した、長く暮らせる家づくり、安心安全快適に暮らせる家づくりに大きく貢献してくれましたことに深く敬意を表します。」と述べた。その後、最近の住宅政策の動向等について、「住宅における省

エネ対策」を下支えするということで、昨年度の補正予算におきまして、子どもエコすまい事業を創設し、子育て世帯などによるZEH住宅取得や、住宅の省エネ改修等に対しても支援をさせていただいております。さらに今回は、経済産業省、環境省と連携し、高断熱の窓、高効率の給湯器に対する手厚い支援を用意させていただいております。こうした事業の実施に当たりましては、三省で連携して、様々な手続きを共通化し、統一の窓口で、この3月31日から申請の受け付けを開始し、着実に申請も進んでいるところです。こうした事業を一つの契機として、ZEH住宅が社会の中で次第に認知されて定着しつつあると考えております。2050年カーボンニュートラルという大きな目標を受け、まず2030年には新築住宅のZEH水準の義務化という目標がありますが、これに向け本事業などをきっかけとし、今後一層のZEH化が進むよう引き続きその普及に努めてまいります。」との想いを語った。また、4月末に成立したクリーンウッド法の一部改正案については、「今回の改正では、川上・水際の木材関連事業者に対し、木材等の合法性の確認を義務付けるというものです。こうした違法伐採対策の取り組み強化と併せ、合法伐採木材の安定供給が確保されますよう、引き続き林野庁と連携してしっかりと取り組んでまいります。このほか、4月には花粉症に関する関係閣僚会議も開催され、花粉症対策の一環として杉の伐採加速化とあわせて、国産材の需要拡大についても岸田総理からご指示があったところです。」と政府の立場を示した。最後に、今後の取組について「引き

続き住宅建築物における木材利用、とりわけ国産材の利用の一層の拡大に取り組んでまいります。このところ木材利用の促進や、木造の住宅および建築物の振興に関しまして、様々な取り組みが進んでおります。今後とも皆様方とよく連携させていただきながら、木造住宅の普及、それから木造の建物の振興に取り組んでまいりますので、ご支援ご協力いただきますようお願い申



来賓祝辞を述べる国土交通省 住宅局
山下英和 住宅生産課 課長

し上げます。」と述べ、今後の木住協の活動に期待を寄せた。

この後、市川会長が議長に就任し、議事録署名人に宮沢俊哉理事と越海興一専務理事の両氏を指名して議案の審議に入った。第一号議案「令和4年度事業報告に関する件」と第二号議案「令和4年度収支決算に関する件」については関連性があることから一括審議され、越海専務理事が報告・説明を行った。報告内容は次の通り。



報告・説明を行う越海専務理事

第一号議案「令和4年度事業報告」

- 会員の状況について—令和5年3月31日には、正会員572社、賛助会員64社、あわせて636社となり、昨年度と同数となった。
- 会議開催について—一定時総会は、明治記念館にて出席者の健康に配慮し感染予防に万全を尽くしたうえで、集合型にて開催。同時に会員限定公開でのライブ配信も実施した。理事会については、計3回にわたり実施。第1回では事業委員会運営規則の一部改正に関する件、第2回では中国地域の支部設置に関する件、既存住宅状況技術者講習実施機関登録の更新申請に関する件などを審議した。運営委員会は計10回にわたり開催した。
- 主要行事への参加及び協賛等について—計17件にわたり参画した。

引き続き、各事業委員会の事業活動が報告された。各事業委員会の主な活動については以下の通り。

技術開発委員会

- ① 木造軸組工法による耐火構造等の研究 ●「木造軸組工法による耐火建築物設計マニュアル」(A: 1時間耐火構造/B:2時間耐火構造)講習会を合計A:16回、B:6回開催。令和4年度受講修了登録者は合計A:367名、B:41名。 ●令和4年度の「木造耐火大臣認定書」(写し)(1時間耐火構造)の発行件数は297件(累計発行件数は4,342件)。(2時間耐火構造)の発行は2件(累

計発行件数は4件)。 ●「木造の可能性<木造による耐火建築物・中大規模建築物>」講演会を東京、大阪にて合計9回開催。令和4年度の受講者は合計47名。

② 木造軸組工法による省令準耐火構造(木住協仕様)の普及 ●電子運用化を図り、令和4年5月19日より特記仕様書のオンライン運用を開始。冊子(印刷物)による運用は令和5年3月31日にて終了。 ●令和4年度の頒

布数は18,030部。(累計頒布数は332,670部) ●「省令準耐火構造(木住協仕様)マニュアル」講習会をWebにて合計12回実施。令和4年度受講者は合計520名。

③ 中大規模木造建築の検討 ●「木造軸組工法による高強度耐力壁・接合金物の開発」検討委員会を設置。委員会を2回、WGを5回開催。 ●木造軸組工法による高耐力耐力壁(木住協仕様)マニュアル講習会をWeb方式にて6回開催。受講登録者は合計36名。 ●中大規模建築物等の構造計画の対応に向け、東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授青木譲治先生による講演会を実施。

- ④ 木造住宅の長寿命化のための改修成功事例集の充実
- ⑤ 法令改正、関連基準整備等への対応
- ⑥ 関連団体等の外部委員会等への参画及び支部活動支援

生産技術委員会

- ① リフォーム関連 ●「リフォーム版施工管理チェックポイントマニュアル」の作成、今年度の発行、並びにセミナーの実施を予定。 ●「既存住宅状況調査技術者講習」(新規・更新)を7月より開催。対面講習は計6回開催。WEB講習は計9回実施、受講者は計166名。修了者数は164名。
- ② 生産管理関連 ●「木造軸組工法住宅 施工管理チェックポイントマニュアルの解説」オンラインセミナーを動画配信で開催。 ●「待ったなし!住宅現場の働き方改革セミナー」をWEB併用開催。受講者は合計26名。 ●富士教育訓練センターにて「木造大工及び工事管理者初級」の技能講習を開催。6名の若手大工が参加。

- ③安全衛生・C S 関連 ●「木造住宅建築の墜転落災害を防止しよう」WEB講習を会員限定から一般公開に変更。 ●「建設業の一人親方等に対する安全衛生教育研修会」を東京で開催。受講者数は18名。

④建設副産物関連

⑤委員会活動

資材・流通委員会

- ①「住まいのトレンドセミナー」の開催による情報提供
- ②見学会の開催 ●「ポラテック(株) 坂東工場 テクノフィールド」を視察。
- ③「Select the Best」の発刊(4回/年)
- ④「資産価値のある高耐久住宅研究ワーキンググループ」
●高耐久資材集2022の募集と公開。
- ⑤木造住宅等に関わる資材・流通・国産材利用実態の調査

業務・広報委員会

- ①事業計画テーマ ●自主統計および着工統計の分析。
- ②具体的進捗状況 ●令和3年度の1種正会員の着工数を国土交通省の着工統計と比較して各種分析を実施。
●マスメディアリリース:計13件のニュースリリースを実施。 ●ホームページとメールマガジン:HPは検索ワード「木で出来たもの」により「木ZZの森」コンテンツへのサイト訪問件数を増加。メルマガ読者数は1,800アドレス程度で推移。発信回数61回。
- ③ 作文コンクール ●10月18日を「木造住宅の日」と定め、第25回「木のある暮らし」作文コンクールを実施。海外5か国5校の日本人学校を含む946校から応募が寄せられ、応募作品は5,765点。 ●朝日小学生新聞、教育新聞、住宅関連業界紙に募集広告掲載。ポスター、チラシを全国小学校、特別支援学校約20,000校、教育委員会、教育センター約1,800カ所に配布。 ●6名の審査員により、国土交通大臣賞、文部科学大臣賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞、外務大臣賞、住宅金融支援機構理事長賞、日本木造住宅産業協会会長賞、朝日小学生新聞賞、団体賞、および佳作を選定。加えて協会各支部によるブロック賞を9賞選定し、10月29日(土)にオンラインによる表彰式を開催。 ●入選作品集を作成し、受賞者の学校へ送付。
- ④ 機関誌「木芽」の発行

研修部

- ①木造ハウジングコーディネーター(木造HC)資格制度の推進。
- ②「住宅と税金(税制ガイドブック)」の改訂と販売。
- ③省令準耐火特記仕様書(木住協仕様)講習会の開催。
- ④スピードスケッチセミナーの開催。
- ⑤木造軸組工法住宅の基礎知識講習の開催。

認定事業推進委員会

- ①『木優住宅』取扱事業運営 ●『木優住宅』の実績は前年度より増加し、26,026戸。目標の19,000戸を遙かに超えた。木造住宅検査員講習会は、Web講習へ完全移行。新規Web講習は42名、更新Web講習は129名が受講。令和4年度末の登録者総数は、合計559名。
- ②『木優住宅』の瑕疵保証事故の抑制 ●雨漏れ自己抑制セミナー、宅地地盤に関するセミナー、屋根と壁の取り合い納まり施工実演セミナーを開催。中国支部設立記念として宅地地盤の危機管理セミナーを開催。
- ③木造軸組工法住宅の管理体制の向上
- ④「木住協保険」取り扱い事業運営 ●「木住協総合補償制度」の取扱い。 ●令和4年度は77社の加入。(株)住宅あんしん保証の商品「あんしんとくともく倶楽部」の販売も実施。
- ⑤住宅瑕疵担保履行法の対応 ●(公財)住宅リフォーム・紛争処理支援センターにおける紛争処理の対象に2号保険が追加になることに伴い、2号保険の保険料が改定。その改定内容を木住協ホームページに掲載及びメルマガ等で周知を図った。

特命担当

- ①長期優良住宅対応事業 ●長期優良住宅先導事業において採択された、合計228戸の履歴管理を引き続けた。
- ②応急仮設住宅建設に係る検討
- ③建築物木材利用促進協定 ●会員の参加した木材利用促進協定の確認。 ●木住協における木材利用促進協定の優位性等を検討。
- ④「木造ユニットシステムを用いた簡易仮設住宅の開発」へのアドバイス

総務・企画

- 本部・支部事務連絡会議をWEBで開催。 ●中国支部

の設立総会開催。 ●インボイス制度への対応開始をホームページに掲載。

その他の主要業務

①地方会員に対する支援強化を含めた活性化と地域貢献

- 林野庁「国産材の安定供給体制の構築に向けた需給情報連絡協議会」の地区別需給情報連絡協議会への参加。
- 「東京ゼロエミ住宅」省エネ基準多段階化における性能基準値の早期見直しについて、東京都知事宛の申込書を(一社)日本ツーバイフォー建築協会、(一社)JBN・全国工務店協会との連名で東京都環境局に提出。
- 東京都環境局ホームページで「東京ゼロエミ住宅指針」7月7日付け改正を告知。メルマガで当該告知内容を発信。

②WOODRISE 2023 BORDEAUX

③製材 JAS(日本農林規格)改正

④森林を活かす都市の木造化推進協議会 ●協議会より「森林(もり)を活かし都市(まち)の木造化を推進するための方策に関する要望書」を提出。

第二号議案「令和4年度収支決算に関する件」

事業報告に続き、第二号議案「令和4年度収支決算に関する件」が報告され、正味財産残高が402,561,176円になり、収支決算については前年比で58,411,515円増額であることなどが説明された。第一号議案と第二号議案の審議を受けて監査報告が行われた。この後、市川議長が2議案を諮り、原案通り全員一致で承認した。

第三号議案「役員の選任に関する件」

この後、第三号議案「役員の選任に関する件」に審議が移り、新たな理事にサーラ住宅(株) 代表取締役社長 大場吉恭、三交不動産(株) 代表取締役社長 中村充孝、積水ハウス(株) 業務役員 渉外部長 岸本浩一、大和ハウス工業(株) 取締役常務執行役員 住宅事業本部長・環境エネルギー事業本部長 永瀬俊哉、ナイス(株) 取締役資材事業本部長(神奈川支部長) 川路泰三、吉野石膏(株) 常務取締役 営業統括本部長 上森一郎、中国木材(株) 代表取締役会長(中国支部長) 堀川智子、一般社団法人 リビングアムニティ協会 専務理事 加藤永が選任された。

令和5年度事業計画及び収支予算に関する報告

定時総会では、引き続き越海専務理事が「令和5年度事業計画及び収支予算」を報告した。事業計画では、重要事項として「本部支部連携の強化・充実や支部未設置地域への支部設置を通じ、協会活動の活性化、会員サービスの向上を図る。地方公共団体との連携を強化し、本部支部の役割分担のもと会員活動支援のためのプラットフォーム整備を進めるとともに、引き続き、木材利用促進協定・災害協定の締結や木造応急仮設住宅供給体制の整備を図るなど、地域貢献活動を強化する。併せて、脱炭素・循環型社会の実現に向け、環境に優しい木材利用や木造建築の推移を図り、SDGsの取組みを行う」とし、7項目の事業計画を定めた。

令和5年度事業計画(抜粋)

- ①良質な住宅ストックの形成とリフォームの推進 ・「資産価値のある高耐久住宅」の研究開発を展開し、ストック社会を支える住宅の高耐久性の向上を推進する。・ZEH等の省エネルギー性能に優れた住宅の普及を図る。・新築・既存住宅の性能(省エネ性、耐震性等)向上に寄与する長期優良住宅、安心R住宅等の取組を進める。
- ②木造住宅・建築物の普及促進 ・木造による中大規模建築物、耐火・準耐火建築物、省令準耐火構造の住宅の普及に向け、高強度耐力壁の検討、耐火構造・準耐火・省令準耐火構造の開発を行う。・建築物等の木材利用促進に向け、非住宅木造建築物の需要拡大を図る。
- ③広報活動の推進 ・小学生を対象とする「木のある暮らし」作文コンクールを継続実施し、「木」について広く一般に訴求する。
- ④人材育成の推進 ・木造ハウジングコーディネーター資格認定制度の充実及び普及を図る。・住宅税制、省エネ基準、スピードスケッチ、木造基礎知識等、人材育成に資する講習を積極的に実施する。
- ⑤良質な資材の普及と木造化・木質化の推進
- ⑥木優住宅等の推進
- ⑦その他活動全般 ・会員企業の事業推進に資する国・関係機関等への提言・要望活動を展開。

一般社団法人 日本木造住宅産業協会 役員名簿

令和5年5月25日現在

役員	氏 名	主たる職業・役職	会員種別	備 考
会長	市川 晃 <small>いちかわ あきら</small>	住友林業株式会社 代表取締役会長	1種A	
	中内 晃次郎 <small>なかうち こうじろう</small>	ボラテック株式会社 代表取締役	1種A	
副会長	脇山 章治 <small>わきやま しょうじ</small>	株式会社北洋建設 取締役最高顧問（九州支部長）	1種A	
	億田 正則 <small>おくだ まさのり</small>	大建工業株式会社 代表取締役 社長執行役員	2種A	
専務理事	越海 興一 <small>こしうみ こういち</small>	常勤役員		
	宮沢 俊哉 <small>みやざわ としや</small>	株式会社AQ Group 代表取締役社長	1種A	
	古川 浩 <small>ふるかわ ひろし</small>	近鉄不動産株式会社 専務取締役 ハウジング事業本部長（近畿支部長）	1種A	
	大場 吉恭 <small>おおば よしやす</small>	サーラ住宅株式会社 代表取締役社長	1種A	新任
	中村 充孝 <small>なかむら みちたか</small>	三交不動産株式会社 代表取締役社長	1種A	新任
	岸本 浩一 <small>きしもと ひろかず</small>	積水ハウス株式会社 業務役員 渉外部長	1種A	新任
	永瀬 俊哉 <small>ながせ としや</small>	大和ハウス工業株式会社 取締役常務執行役員 住宅事業本部長・環境エネルギー事業本部長	1種A	新任
	佐藤 孝司 <small>さとう たかし</small>	株式会社土屋ホーム 相談役	1種A	
	川路 泰三 <small>かわじ たいぞう</small>	ナイス株式会社 取締役 資材事業本部長（神奈川支部長）	1種A	新任
	河野 守 <small>こうの まもる</small>	株式会社日本ハウスホールディングス 取締役 日本ハウス事業部 本部長	1種A	
	近藤 昭 <small>こんどう あきら</small>	株式会社松家住宅 最高顧問	1種A	
	古河 潤一 <small>ふるかわ じゅんいち</small>	古河林業株式会社 代表取締役社長	1種A	
	野村 孝一郎 <small>のむら こういちろう</small>	株式会社細田工務店 代表取締役社長	1種A	
理事	古屋 保巳 <small>ふるや やすみ</small>	ミサワホーム株式会社 取締役専務執行役員	1種A	
	江井 政仁 <small>えねい まさひと</small>	株式会社えねい建設 代表取締役（静岡県支部長）	1種B	
	安田 正介 <small>やすだ しょうすけ</small>	株式会社 サンゲツ 代表取締役社長執行役員	2種A	6/30 辞任予定
	大和田 整 <small>おおわだ ただし</small>	株式会社 サンゲツ 常務執行役員 事業部門GM	2種A	7/1 就任予定
	喜多村 円 <small>きたむら まどか</small>	TOTO株式会社 代表取締役会長兼取締役会議長	2種A	
	吉村 恒 <small>よしむら こう</small>	東京ガス株式会社 総合設備事業部長	2種A	
	島村 明 <small>しまむら あきら</small>	株式会社ノダ 常務取締役	2種A	
	山田 昌司 <small>やまだ まさし</small>	パナソニック ハウジングソリューションズ株式会社 代表取締役 社長執行役員	2種A	
	上森 一郎 <small>うわもり いちろう</small>	吉野石膏株式会社 常務取締役 営業統括本部長	2種A	新任
	高島 太志 <small>たかしま ふとし</small>	株式会社LIXIL 常務役員 LWTJ営業本部 本部長	2種A	
	堀 秀充 <small>ほり ひでみつ</small>	YKK AP株式会社 代表取締役会長	2種A	
	堀川 智子 <small>ほりかわ ともこ</small>	中国木材株式会社 代表取締役会長（中国支部長）	2種B	新任
	加藤 永 <small>かとう ひさし</small>	一般社団法人 リビングアメニティ協会 専務理事		新任
	(29名)			
監事	高橋 聡 <small>たかはし さとる</small>	株式会社一条工務店 執行役員 営業部部長	1種B	
	殿井 一史 <small>とのい かずし</small>	二チハ株式会社 取締役専務執行役員	2種A	
	(2名)			

※（会員種別順 会社名五十音順）

令和5年度功労者表彰式も開催 会員28社と個人14名の功績を顕彰



事業部門で受賞者を代表して表彰を受ける 東成建設株式会社 平岡氏

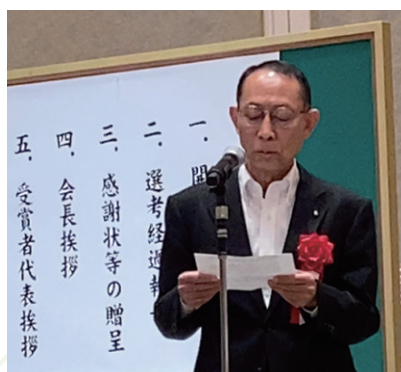


業務部門で受賞者を代表して表彰を受ける ナイス株式会社 宮代氏

定時総会の終了後に、令和5年度功労者表彰式を行った。この表彰制度は、協会設立10周年の平成8年に制定され、事業部門で顕著な功績を挙げられた会員企業と、業務部門として本部・支部の運営などに顕著な功績のあった功労者を顕彰するもので、表彰会員企業(者)は先の理事会で承認された。功労者表彰では、別表の通り、木優住宅事業で顕著な功績を挙げられた会員や、工事総合保険事業関係、1時間耐火構造関係、省令準耐火構造関係、木造ハウジングコーディネーター関係などで貢献した会員企業28社が事業部門で表彰された。業務部門表彰では本部や神奈川支部、中部支部、近畿支部

の運営など、長きにわたり協会の発展に多大の功績を挙げられた14名が表彰された。

市川会長は、本業で多忙な中、協会・会員のために長年



受賞者を代表して謝辞を述べる ナイス株式会社 宮代氏

にわたり尽力し貢献されてきた受賞企業・会員に向け、感謝とともにその功績を称え、今後の活躍を祈念した。これを受けて、業務部門功労者 ナイス株式会社 宮代博幸氏が、全受賞企業(者)を代表して、表彰への謝辞とともに、環境問題の解決等に貢献する住宅業界の取り組みに、木住協とともに一層尽力していく決意を述べた。

・・・令和5年度 功労表彰受賞者・・・

事業部門表彰

一木優住宅事業関係一

アサヒグローバルホーム(株)

(株)蓮川工務店

(株)オープンハウス・アーキテクト

SATO 設計(株)

(株)建設のマルモ

(株)大和日建

(株)アイ建設

(株)三井開発

(株)のあ建築設計

一工事総合保険事業関係一

旭ハウジング(株)

(株)池田建設

(有)梶原住研

(株)白石建設

(株)センダハウス

(株)創和技建

たいせい住宅兵庫(株)

東成建設(株)

山口木材(株)

吉野銘木製造販売(株)

一1 時間耐火構造関係一

住友林業(株)

イズアーク(株)

(株)ウルテック

一省令準耐火構造関係一

(株)谷川建設

大和ハウス工業(株)

古河林業(株)

一木造ハウジングコーディネーター関係一

(株)日本ハウスホールディングス

(株)アツシュホーム

ヤマサハウス(株)

業務部門表彰(功労者)

一本部関係一

中田 和仁 (株)土屋ホーム)

鷺谷 一彦 (株)ハセベ)

一色 太 (パナソニックホームズ(株))

西城戸邦治 (積水ハウス(株))

深谷 明城 (ミサワホーム(株))

一支部関係一

神奈川支部 宮代 博幸 (ナイス(株))

中部支部 佐藤 弘一 (住友林業(株))

青山 勝也 (株)鶴弥)

岩村 茂 (積水ハウス(株))

近畿支部 松井 孝明 (株)ハウステック)

鈴木 敏彦 (津田産業(株))

松尾 茂男 (大林新屋和不動産(株))

中野 幸久 (株)昭和工務店)

五所 克行 (住友林業(株))

理事会と記者会見も開催



格式高い設えの「末広の間」で行われた理事会

定時総会と功労者表彰を終え、明治記念館内の和風の設えが美しい「末広の間」で理事会を開催した。席上、新たに理事に就任した方々を一人ずつ紹介した後、会長、副会長、専務理事※の選任が行われた。最後に越海専務理事より「令和5年度職務の執行状況」について報告された。（※専務理事については、越海理事が6月2日で退任、6月3日より加藤理事が就任となった。）

理事会終了後は、市川会長と副会長、専務理事、運営委員長、運営副委員長、各事業部員らが参加し、記者会見を開催した。冒頭市川会長は、木住協が本年4月で設立37年目となる旨を伝え、会員、関係各位への尽力に感謝を述べるとともに、昨今の社会情勢や経済状況の中で、住宅産業に期待される部分は大きいとし、特にGXにおい



多くの記者が参加して行われた記者会見の様子

て、持続可能な社会の実現に向けて、木造住宅の役割がますます大きくなってきているとの考えを述べ、引き続きよりよい木造住宅の普及と地域貢献を目指す木住協の今後の取り組みへ、一層の期待と支援を求めた。その後は、越海専務理事より、令和5年度定時総会での審議内容が報告された。加えて、木住協より報道関係へのプレスリリースとして、1時間耐火構造大臣認定の更新、長期優良住宅認定基準・建築物省エネ法改正施工に伴う関連書籍の発行、「石綿関係法改正」セミナーYouTube配信、「木のある暮らし」作文コンクールについて、木造ハウジングコーディネーター資格制度について、木造応急仮設住宅建設に関する協定について、に関する資料が配布された。

4年ぶりの懇親パーティー開催

会見に引き続き、午後5時から定時総会に出席した会員や来賓、関係諸団体の幹部などが参加し、令和元年以来、4年ぶりとなる懇親パーティーを開催した。市川会長による主催者挨拶に続き、来賓からの祝辞が送られ、木住

協 脇山副会長の乾杯の音頭で歓談タイムへ。最後は憶田副会長の締めめのあいさつで盛況のうちに幕を閉じた。



華やかな雰囲気の中行われた懇親パーティーの様子



- ①主催者あいさつをする 市川会長
- ②祝辞を送る国土交通省 塩見住宅局長
- ③祝辞を送る林野庁 土居木材製品技術室長
- ④祝辞を送る住宅金融支援機構 毛利理事長
- ⑤祝辞を送る住宅生産団体連合会 井上副会長
- ⑥乾杯のあいさつをする木住協 脇山副会長
- ⑦中締めめのあいさつをする木住協 憶田副会長

「木造軸組工法による 耐火建築物設計マニュアル講習会」実施

当協会は、「木造軸組工法による耐火建築物設計マニュアル講習会(1時間耐火構造)」を、桜設計集団代表安井氏を講師として4月21日に開催した。対面による受講者は46名と、最近では非常に多くの方に受講していただいた。

当協会では、木造建築物の防耐火性能向上を目的に技術開発を重ね、建築基準法第2条第七号ならびに、同法施行令第107条の規定に基づく木造軸組工法による耐火構造(主要構造部:1時間、2時間(屋根・階段:30分))の国土交通大臣認定を取得した。近年は、より現場で使いやすい仕様となるよう、仕様の更新・追加申請や認定の統合等を行っている。

この認定内容を「木造軸組工法による耐火建築物設計マニュアル(1時間耐火構造)・(2時間耐火構造)」としてまとめ、講習会を開催して確実な設計・施工による木造軸組工法による耐火建築物の普及を図っている。1時間耐火構造の大臣認定(写)発行件数は2023年3月末時点で累計4,342件、講習会受講終了登録者数は10,844名となった。



講師：安井氏

本講習会では、認定内容の解説のみならず、木造軸組工

法による耐火建築物の考え方や取合部・開口・貫通部等の納まりなどについても解説している。また、2019年6月施行の改正基準法に規定された高度な準耐火構造について、75分準耐火構造の間仕切壁、75分・90分準耐火構造の外壁の大臣認定を取得し、1時間耐火構造の講習会時に解説している。



講習会の様子



■ 木造軸組工法による耐火建築物設計マニュアル講習会【1時間耐火構造】

開催日	場 所	会 場	定 員
2023年9月22日	東京	(一社)日本木造住宅産業協会 6階 会議室	50名
2023年9月22日	Zoom	Zoom (9/22 東京会場と同時開催)	80名
2023年10月6日	大阪	新大阪丸ビル 別館 5-2号室	20名
2023年10月20日	東京	(一社)日本木造住宅産業協会 6階 会議室	50名
2023年11月17日	東京	(一社)日本木造住宅産業協会 6階 会議室	50名
2023年11月17日	Zoom	Zoom (11/17 東京会場と同時開催)	80名
2023年11月24日	名古屋	WINC AICHI (ウイंकあいち) 愛知県産業労働センター 1205	20名
2023年12月15日	東京	(一社)日本木造住宅産業協会 6階 会議室	50名
2024年1月19日	東京	(一社)日本木造住宅産業協会 6階 会議室	50名
2024年1月19日	Zoom	Zoom (1/19 東京会場と同時開催)	80名
2024年2月2日	大阪	新大阪丸ビル 別館 3-1号室	20名
2024年2月16日	東京	(一社)日本木造住宅産業協会 6階 会議室	50名

※【1時間耐火構造講習】詳細は右記URL参照 <https://www.mjkkoushuu.jp/seminar/detail/285>

■ 木造軸組工法による耐火建築物設計マニュアル講習会【2時間耐火構造】

日 程	講習方式	定 員
2023年8月20日～2023年8月31日	WEB	80名
2023年10月20日～2023年10月31日	WEB	80名
2023年12月1日～2023年12月10日	WEB	80名
2024年2月20日～2024年2月29日	WEB	80名

※【2時間耐火構造講習】詳細は下記URL参照
<https://www.mjkkoushuu.jp/seminar/detail/287>

お申し込み・講習会の内容に関してのお問合せ先

(一社)日本木造住宅産業協会
技術開発部
TEL：03-5114-3012
FAX：03-5114-3020
E-mail：gijutu_k1018@mokujukyo.or.jp

令和5年度 第1回「住まいのトレンドセミナー」 「住宅生産行政の最近の動向」について

国土交通省木造住宅振興室長 石井 秀明 氏

1. 住宅・建築物への木材利用の促進

1-1 現状と課題

石井室長は、まず住宅・建築物への木材利用の推進について、現状と課題を説明しました。

建築基準法の改正においても「脱炭素社会の実現」という言葉が用いられるなど、現代は社会全体がカーボンニュートラルに向けてシフトしており、木造についてもカーボンニュートラルというキーワード抜きに語れないと説明。こうした現状における木材利用の意義として、①森林による二酸化炭素の吸収作用の保全と強化。②二酸化炭素の排出の抑制等。③山村その他の地域経済の活性化の3つが挙げられるとし、それぞれについて解説しました。また、木造住宅は、鉄骨造や鉄筋コンクリート造の住宅に比べて炭素貯蔵量が多いほか、材料製造時の炭素排出量は少ないという特性があり、CO₂抑制に大きく貢献するものと述べました。

そして、実際に全国で中高層木造建築の事例は増えつつあるとしながらも、実際のデータを見ると非住宅の分野においては木造の割合が極めて少ないと指摘。一方、住宅分野においては、1～2階ではすでに88%と木造率が高いうえ、今後世帯数が減少していくと予想されており、木造化を進めるにも限界があると説明しました。こうした現状においては、非住宅の分野の伸びしろが大きいととらえ、住宅産業や住宅用資材業界の企業もぜひ参入してほしいと訴えました。

次に石井室長は、木造建築業界の人材の問題に言及しました。

平成25年度の「戸建て住宅供給の大工・工務店における年間受注戸数別シェア」を見ると、年間受注戸数が50戸未満の中小工務店が約5割と最も多いが、後継者不足に悩む工務店が増えていると指摘。また、前述した非住宅分野の木造化にこうした中小工務店の参入を期待したいが課題もあるため、今後工務店の在り方を考えていく必要があるとしました。

また、木造住宅の担い手である大工就業者数がこの20年間で半減しており、この5年間では約35万人から約30万人へと5万人も減少していると説明。これについては、

プレカットの普及で手仕事が減り大工の立ち位置が変わってきたとしながらも、今後増えるであろうリフォームの現場においては経験や知識のある大工の存在が必要不可欠になるとし、大工の減少に対し大きな危機感を示しました。

1-2. 木材利用促進への取組

石井室長は、2050年のカーボンニュートラルの実現に向け、今後の住宅・建築物における木材利用促進への取組について、以下の3つに分けてそれぞれ解説しました。

①規制の合理化

建築基準法における防火規制、構造規制、その他において、技術的に安全性等が確認できたものについて、順次合理化を図っている。

②住宅における木材の利用の促進

●地域型住宅グリーン化事業

地域における木造住宅の生産体制を強化し、環境負荷の低減を図るため、資材供給、設計、施工などの連携体制により、地域材を用いた省エネ性能等に優れた木造住宅（ZEH等）の整備等に対して支援を行うとともに、地域材の活用促進の支援を強化する。特に関連事業者のグループ化は、お互いの連携や理解を深めるのに有効であり、業界再編にも役立つ仕組みだと考えている。

●地域住文化加算について（R4地域型住宅グリーン化事業において拡充）

地域型住宅グリーン化事業の各グループにおいて、地方公共団体が策定した地域住文化要素基準に定められた建築技術の要素（地域住文化要素）を3つ以上取り入れた共通ルールを策定した上で、グループの工務店が、共通ルールに基づき地域住文化要素を取り入れた住宅を整備した場合に、地域住文化加算を活用可能。現在、13県が地域住文化要素基準を策定・公表済みである。

●安定的な木材確保体制整備事業（地域型住宅グリーン化事業の一部）

木材の価格高騰・需給ひっ迫を踏まえ、中小工務店、建材流通事業者、製材事業者、原木供給者など関係事業者の連携による安定的な木材確保に向けた先導的取組に対し補助金を設け促進を図る。これまで13の提案を採択し、

取組に対し支援を行っている。

●大工技能者等の担い手確保・育成事業

木造住宅の担い手である大工技能者の減少・高齢化が進む中、木造住宅の生産体制の整備を図るため、民間団体等が行う大工技能者等の確保・育成の取組について、中小工務店等のDX推進による労働環境向上を図る取組を重点的に支援する。特に人材の確保については業界をあげての運動が必要である。

③先進的な技術の普及の促進等

●サステナブル建築物等先導事業(木造先導型)

木造化に係る住宅・建築物のリーディングプロジェクトを広く民間等から提案を募り、支援を行うことにより、総合的な観点からサステナブルな社会の形成を図る。

●優良木造建築物等整備推進事業

カーボンニュートラルの実現に向け、炭素貯蔵効果が期待できる木造の中高層住宅・非住宅建築物の普及に資する優良なプロジェクトに対して支援を行う。

●中大規模木造建築ポータルサイト

中大規模木造建築ポータルサイト(令和3年2月17日開設)により、中大規模木造建築に関する知識・技術の習得に役立つ情報(設計技術情報、講習会情報等)や、木造建築の実現にあたりビジネスパートナーを見つけるために役立つ情報(担い手・サプライチェーン情報)、設計者相互の情報交流の場(相談箱)等のコンテンツを提供する。

2. 建築物省エネ法等の改正

次に、石井室長は建築物省エネ法等の改正について説明。2年後の省エネ基準適合の義務化が円滑に進むよう準備を進めていると述べました。いわゆる「4号特例縮小」については、省エネ基準適合の義務化に踏み切るうえで、見直さざるを得なかった措置であると説明しました。

また、義務化にあわせ、断熱等性能等級の5・6・7、また一次エネルギー消費量等級6など、住宅性能表示制度における省エネ性能に係る上位等級を創設したことについても話しました。

3. 令和4年度 第2次補正予算及び令和5年度予算

続いて、予算についてです。令和3年度の補正予算で措置した「子どもみらい住宅支援事業」の後継として、「子どもエコすまい支援事業」を立ち上げ、令和4年度補正予算として1,500億円を計上。子育て世帯・若者夫婦世帯による高い省エネ性能(ZEHレベル)を有する新築住宅の取得や、住宅の省エネ改修等に対して支援することにより、子育て世帯・若者夫婦世帯等による省エネ投資の下支えを

行い、2050年カーボンニュートラルの実現を図るとしました。

さらに、住宅の断熱性能向上のための先進的設備導入促進事業等(経済産業省・環境省)、高効率給湯器導入促進による家庭部門の省エネルギー推進事業費補助金(経済産業省)など、3省連携で総額3,000億円近い補助金を準備し、省エネリフォームに対する支援を強化。用意された制度をぜひ活用してほしいと話しました。



国土交通省木造住宅振興室長 石井 秀明 氏

4. その他

石井室長は、住宅局関連の2つの法案について解説を行いました。

一つ目は、「空家等対策の推進に関する特別措置法」、いわゆる「空家法」の一部を改正する法律案についてです。石井室長はこの改正案について、これまで機能してきた「空家法」を、所有者の責務をより強化し、空き家の「活用拡大」、「管理の確保」、「特定空家の除却等」という3つのフェーズにおいて新たな措置を施せるようにするものと説明。「空家法」とは一見関係ないように思える住宅業界においても、リフォームの増加を考えれば、特に「活用拡大」の部分で今後関われる部分があるのではないかと話しました。

二つ目は、「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律」、いわゆる「クリーンウッド法」の改正についてです。石井室長は、カーボンニュートラルのための環境保全という文脈からも、違法伐採への関心が高まっているとし、現行で努力義務でしかない合法伐採木材等の利用の規制を強化する改正案であると説明。川上・水際の木材関連事業者による合法性の確認等や、素材生産販売業者による情報提供を義務付けするものだとしました。

なお、この法律の改正により木材の不足などが生じるのではないかという不安もあったが、調査をしてみるとすでに住宅産業では多くが合法の木材を使用しており、大きな混乱が生じることはないだろうとしました。

最後に石井室長は、「木造を促進していきたいという我々の思いを皆様方にお伝えしたかった。今後も皆様のご協力を頂戴しながら、木造振興に努めてまいります」と話し、講演を終えました。

満足度を追求する 空間づくりの総合建設業へ

株式会社 岡本建設（山口県）

Interview

山口県のJR新下関駅から車で約5分、国道259号に面した角地に株式会社岡本建設がある。2017年創業。地元企業の建設関連業務を主体として、山口県内や福岡県北九州市など近隣地区を対象として実績を積み重ねている。戸建住宅やマンション、医療・福祉施設、教育・保育施設、商業施設、事務所・工場など多種多様な建造物を手がけ、施工の幅を広げる。土地探しから建物の企画、設計、基礎工事、施工、引き渡しまでをワンストップで行い、総合建設業を目指す。近年の仕事の依頼は、個人、建設業・不動産業界だけではなく、金融機関からの紹介も増えているという。

創業から約5年の若い会社だが、岡本建設のルーツは創業者である岡本社長の祖父が経営していた「岡本工務店」にまで遡る。その創業の思いや事業内容、今後の目標、木造住宅へのこだわりなどをお伺いした。

代表取締役
岡本 匠史氏



あきらめない 負けない、根っこがある

岡本建設の創業の切っ掛けは、岡本社長の祖父が経営し倒産した「岡本工務店」を復活させたいという思いからである。「祖父の工務店が私の生家でした。幼少の頃から身近にあったのは、木製の墨つばやノコギリなどの大工道具

一式で、家づくりの現場は私の遊び場のようなものでした。そんな環境で育ち、自然と建設の仕事を目指して大人になり、いつかは祖父の会社を継ぐつもりでしたがその前に倒産してしまいました」。岡本社長は新卒でとある建設会社に入社したが、その会社は倒産したという。祖父の会社が倒産した時は、下関の建設会社に勤めていた。「倒産から10年以内に

祖父の会社を復活させるため、自分の会社を立ち上げるという目標ができました。当時勤めていた会社では建設部で建設会社との調整が仕事だったので、自分の会社を立ち上げれば、将来的にもお付き合いできると考えました。そして会社勤めをしながら、一級建築士の資格と宅建の資格を取得し、倒産から8年目に復活、創業が可能となりました。社名



確かな技術と続く伝統と、新しい情報技術により、ハイエンドな注文住宅を実現。



木を知り尽くした、実力のある棟梁が作り上げる匠の技。

は岡本工務店から岡本建設に変更し、総合建設業を目指すこととしました」。前に勤めていた会社とは今も良いお付き合いが続き、とても感謝していると岡本社長は言う。

岡本建設の看板や名刺には、会社のスローガンが書かれている。『負けない、根っこがある。わたしはあきらめない、どんな困難でも。世の為、人の為、自分の為に。こけても立ち上がれ、あきらめない限り失敗ではない。夢を夢で終わらせない。絶対に実現してみせる。今までもそうして生きてきた。家族に支えられて。仲間を支えられて。お客様に支えられて。これからも絶対にあきらめない、それがわたしからの恩返しだ。誠実、謙虚、熱心、そし

祖父の岡本工務店時代のヘルメットと現在のもの。歴史を大切に受け継ぐ。

て感動を。いつも、まんなかひとのおもいを。』岡本社長の熱意が伝わる文章である。「植物などもそうですが、根っこが強ければ、雑草魂じゃないですが、何があってもまた生えてきます。そういう強い気持ちを持ち続けたいという考えです」と、熱く語る。

創業から約5年間で事務所を3回移転したという。「創業当時は小さな事務所で、何年かは私一人で仕事をしようと思っていました。始めの頃は、売上の約半分が前の会社からの仕事でした。前の会社の会長に、設立資金を出資していただいた関係もありました。その後思った以上に受注があり、人を増やせばまた仕事が増え、広い事務所に移っていき、現在社員は9人になりました。仕事も始めは下請け事業の分譲住宅が主でしたが、創業から一年経つと元受けの仕

事も増えてきました。一番の転機は、特定建設業許可を取得したことです。金融機関からの紹介や大きな仕事が取れるようになりました」と、当時を振り返る。

確かな技術と続く伝統と、新しい情報技術

現在の売上の比率は、建設事業が50%、住宅事業が30%、修繕・メンテナンス・リフォームが20%。工場などの非住宅の仕事も増えているという。「非住宅は売上が大きいので比率も高くなります。施工には建築基準法により、建てる土地に用途規制が生じるため、お客様が安心して土地と建物を所有していただけるように全面的なサポート体制を整えています」。住宅事業は、高品質なCG建築パースを用いて完成予定の建物を立体的に表現し提案する。「棟梁でもあった祖父は、墨付けから棟上げまで一貫して行う大工でした。その姿を見て育ちましたので、実績のある熟練職人の確かな

腕と丁寧な施工でお客様に満足いただきたいと思います。確かな技術と続く伝統と、新しい情報技術を駆使した注文住宅を提供します」。また今後は、メンテナンスやアフターフォローに



力を入れたいという。「創業から今までは全速力で突っ走ってきたので、今後は今のお客様を大切に、メンテナンスやアフターフォローを重視していきたいと考えています。このまま突っ走るとお客様も付いてこないと思っています」。

木造建築についてのこだわりは、お客様のニーズに合わせているという。「当社のお客様はInstagramなどをすごく見ているので、デザインへのこだわりが強い方が多いです。そんなニーズに合わせて、HPにも手がけた物件の写真を多数載せています。デザインの好みはお客様によって様々で、木の素朴さを前面に出したデザイン、木を使ったスタイリッシュなデザインなど、お客様が求めている家づくりを心がけています。私は工務店で木や木屑に囲まれて育ちましたから、木のぬくもりや香りなどの良さをよく知っています。木の良さを活かし、お客様のニーズに応えるデザインでリーズナブルな価格の住まいを提供することを大切にしています。また、最近は住宅だけではなく、施設や事務所などの木造建築も手がけています」と、岡本社長の木造への思いが伝わってくる。

運動と食生活の改善が明日の活力に

毎日忙しく働いている岡本社長に、プライベートのことを伺ってみた。「運動が好きで若い頃から空手をやり、年1回くら

いはマラソン大会にも出場していました。しかし創業から約3年は仕事漬けでプライベートがなく、運動もできなく食事でも偏っていたので体重が約10kg増え、体調も悪くなってしまいました。そこで生活習慣を変えなければと思い、ジムに通って筋トレを始め、食事の改善をしました」。これからの目標は、40歳から出場できる空手のマスターズ大会と、フィジークの大会に出場することだという。「フィジークとは、バランスのいい筋肉の付き方を競う新しいフィットネスの競技です。ボディビルのようなムキムキの筋肉ではありません。トレーナーを付けて筋トレをし、お弁当も自分で作っています。筋肉をつけるために鶏の胸肉が中心ですが」と笑いながら話す。

今後は、『人を大切にする計画』を

今後は、『人を大切にする計画』を進めていきたいという。「先ほどもお話ししましたが、創業から今までは全速力で突っ走ってきたので、今後は従業員が働きやすい環境を作るなどの足元を固めることを大切にしたいと考えています。とりあえ



周りの自然と溶け込む、木と石を美しく使ったモダンなデザイン。

ずこれから一年間で基礎を作ろうと思っています。私も経営者セミナーを受け、社員も木住協のセミナーにどんどん参加させていきたいと考えています」と意気込みを語る。

最後に事業面での今後を伺うと、「まず、継続できる会社を目指すことです。祖父の会社や新卒で勤めた会社の倒産、その他周りの多くの倒産を見てきたので。そのためには、地道に一年一年変わって注目される会社でなくてはならないと感じています。その積み重ねで、市内でトップクラスの企業になることを目指していきます。また、お客様も建物も社内の人材も、アフターフォローすることが大切だと思います。さらに先のビジョンとして、岡本建設にしかできないこれからの時代に合った理想の建築物の供給を目指します」と、どんな困難にも立ち向かう岡本社長のアツイ情熱と意欲が伝わってきた。



木目や節など、木の良さを十分に活かした開放的な空間。

Company Profile

【会社概要】

株式会社 岡本建設

代表取締役 岡本匠史

所在地

〒751-0864 下関市伊倉町一丁目2番25号

TEL 083-242-1688

FAX 083-242-1699

URL <https://www.okamoto-kensetsu.com>

【会社沿革】

2017年 下関市長府中土居にて創業

2019年 下関市稗田町へ移転

2020年 特定建設業許可取得

2021年 現在の事務所へ移転

【事業内容】

総合建設業、一級建築士事務所

宅地建物取引業、火災保険代理業

ピカイチ社員



設計部 松本 雅美氏

Q.業務の内容と、 入社の経緯は？

設計部で木造住宅の設計と、インテリアコーディネートを行っています。入社は2年前です。その前は工務店で、インテリアコーディネートと設計アシスタントを8年間。結婚・出産が早かったので、働きながら3人の子を育てながら、二級建築士とインテリアコーディネーター、宅建の資格を取得しました。

Q.仕事で心がけていることは？

お客様にとっては一生に一度のことなので、初心を忘れずに何ごとも軽く考えず、お客様の立場に立ってヒヤリングし、言われたことだけではなくお客様のイメージに合わせたご提案を心がけています。お客様とお話をしても、私がお要望を正確に理解できていないことやお客様が伝えきれなかったことなどもあります。それがないように、井戸端会議の中からお客様の考えをくみ取っていきます。具体

的には、専門用語を使わず、わかりやすく説明すること。できないことはハッキリ言うこと。予算を明確にすることなどがあります。

Q.うれしかったことや 成功事例は？

何社かのプランニングの競合で勝ち、お客様に私の設計が一番良かったと言われた時はうれしかったです。同じ敷地・平米数なのに、私の設計が他とは何かが違うと思って選んでくれたのですから。

Q.将来の夢は？

まだまだ勉強不足なところがあるので、さらに日々精進して、会社にとってなくてはならない存在になりたいと思っています。そしていつになるかわかりませんが、土地を買う前からお客様に寄り添い、お話をして家づくりをしたいと思っています。

木造は温かみがある、家が生きているという感じがします。衣食住の「住」は、人



の全てが入っていると思います。住むというだけではなく、そこで食べる、そこで服を着替える。一生そこで暮らしていくのが大事だと思うので、どれだけ快適に過ごせるか。家を建て替えたい、引っ越したいと思われないような家を作りたいと思います。

株式会社 岡本建設のこだわりPOINT

社員一人ひとりが成長し
私たちの暮らす街とそこで生きる人が
より一層発展していくように

社長のひとこと

誠実、謙虚、熱心、そして感動を。
いつも、まんなかひとのおもいを。



戸建外観



戸建内観

10月18日「木造住宅の日」記念イベント

第26回「木のある暮らし」

作文コンクール募集のご案内

当協会は、毎年10月の住生活月間イベントとして、国内外の児童(小学生)を対象に「木のある暮らし」作文コンクールを行っており、本年度で26回目となります。全国の小学校ならびに海外の日本人学校へ合わせて約20,000校、また当協会会員に広く案内をしております。

本作文コンクールのテーマは、日常生活に身近な「木のある暮らし」としてあります。この作文への取り組みを通じて、地球環境に興味を抱いてほしいという願いを込め、木や森、建物や街にあるさまざまな木製品、林業体験の思い出など、児童が自由な発想で表現することで、脱炭素社会やSDGsの実現、これからの社会環境等について理解を深める絶好の機会になると考えております。

本年より、多くの学校、児童が取り組みやすいように応募期間を拡大変更し、より多くの方に応募いただけるよう呼びかけてまいります。

第26回 木のある暮らし 作文コンクール

まわりにある木のことを作文にしてみよう

作品まつるよ!

応募期間 2023年5月15日(月)→9月11日(月) 消印有効

応募資格 ●低学年の部・小学1～3年生 ●高学年の部・小学4～6年生 ※ならびにこれに準ずる学年・年齢

発表 ●本住協ホームページおよび朝日小学生新聞紙上で発表!

表彰式 2023年10月28日(土)14:00～(オンラインで開催予定)

国土交通大臣賞・文部科学大臣賞・農林水産大臣賞・環境大臣賞・外務大臣賞ほか、多くの賞があります。受賞者には賞状と副賞(副賞)を用意しています!

参加賞! かわくと森に贈るエコねんど

一般社団法人 日本木造住宅産業協会
主 催：一般社団法人 日本木造住宅産業協会
後 援：国土交通省・文部科学省・農林水産省・環境省・外務省・住宅金融支援機構・朝日小学生新聞社

<https://www.mokujukyo.or.jp/> / 本住協

応募要項

【応募期間】

2023年5月15日(月)～9月11日(月) 消印有効

【応募資格】

- 低学年の部・小学1～3年生
※ならびにこれに準ずる学年・年齢
- 高学年の部・小学4～6年生
※ならびにこれに準ずる学年・年齢

【各賞】

- 国土交通大臣賞・文部科学大臣賞・農林水産大臣賞・環境大臣賞・外務大臣賞
- 住宅金融支援機構理事長賞・日本木造住宅産業協会会長賞・朝日小学生新聞賞
- 審査員特別賞・木住協ブロック賞・佳作
- 最優秀団体賞・優秀団体賞

【参加賞】

- 「かわくと木になるねんど」を応募者全員に贈呈。

【発表】

2023年10月28日(土)に木住協のホームページおよび朝日小学生新聞紙上で発表
※入選者の方には事前に直接ご連絡いたします。

【表彰式】

2023年10月28日(土)14:00～(オンライン開催予定)
※受賞者の方には学校経由でのご連絡、また個人応募の方へは直接ご連絡いたします。

会員企業の皆さまには、自社の店頭やモデルハウス内に開催告知ポスター類を掲示し、来場者や見込み客の児童たちに作文コンクールの応募へのPR活動をお願いいたします。

本件に関する問合せ先

一般社団法人 日本木造住宅産業協会内
「木のある暮らし」作文コンクール事務局
TEL.03-5114-3015

応募について詳しくはこちら
<https://www.mokujukyo.or.jp/lifewithwood/concour/>





2023年度(第23回) 木造ハウジングコーディネーター講習会 および資格試験の開催概要

講習会は対面型に加え、長期間WEB配信いたします。資格試験は全国約200か所のテストセンターを活用したデジタル試験といたします。また、実際のデジタル試験を想定したWEBによる「想定問題集」を提供します。

木造軸組工法住宅の基本から、設計・施工にわたる知識を広く学んでいただき、お客様から信頼される人材の育成やスキルアップを目指し、ベテランから新人までより多くの受験者を募っています。

講習会

対面型(2日間連続)

- 大阪会場(大阪市) 9月11日(月)・12日(火)
- 愛知会場(名古屋市) 9月14日(木)・15日(金)
- 東京会場(港区) 9月20日(水)・21日(木)

※対面型の受講者はWEB型も受講できます。

WEB型

配信期間：10月14日(土)～11月30日(木)

※配信期間中、都合の良い時間帯で繰り返し受講できます。

資格試験

試験日：2023年12月5日(火)または6日(水)

試験時間：営業編・技術編 各最大60分

出題数：営業編・技術編 各200問

解答方式：二択(○×)式

会場：全国約200か所の

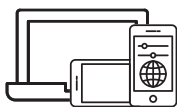
テストセンターにてデジタル試験

各自で試験日時を選択し予約

(開場時間：午前10時～午後8時)

木造ハウジングコーディネーター講習会・資格試験

対面講習会のWEB配信と 「想定問題集」のデジタル化



PC・スマホ・タブレット
があれば、どこでもOK



決められた期間の
好きな時間に受けられるので
時間に無駄がありません



「想定問題集」のデジタル化により
学習のしやすさで学力アップ



自宅や職場で受講できるので
移動不要で出費削減



分かりやすいカリキュラムで
シンプルで学びやすい

学び方のご提案

資格試験会場は 全国テストセンター



全国に多数の会場を用意
主要都市には複数の会場



お好きな試験会場で受験
試験は紙からデジタルへ



試験室はソーシャルディスタンス
安心して受験できます

公的統計データから『見える』建築物木造化の動向(参考資料)



用途別木造化率の推移

表1 着工建築物：用途別木造化比率(H20～R4の15年間推移)

年 度	全建築物						うち住宅					
	全 数		うち木造		木造化率		全 数		うち木造		木造化率	
	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率
令和4年度	539,771	118,722,364	406,097	48,765,056	75.2%	41.1%	463,968	67,456,707	383,219	44,796,495	82.6%	66.4%
令和3年度	571,832	122,467,980	437,307	52,796,176	76.5%	43.1%	496,449	70,694,477	414,608	48,778,232	83.5%	69.0%
令和2年度	533,806	114,299,670	407,147	49,774,984	76.3%	43.5%	458,964	65,782,183	383,879	45,401,292	83.6%	69.0%
令和元年度	589,023	124,932,929	444,778	54,830,300	75.5%	43.9%	504,319	72,597,451	419,252	49,995,790	83.1%	68.9%
平成30年度	604,622	131,079,408	450,698	55,935,209	74.5%	42.7%	515,860	75,630,102	424,926	51,167,031	82.4%	67.7%
平成29年度	599,483	133,029,356	443,129	55,727,259	73.9%	41.9%	507,642	76,184,603	416,003	50,625,687	81.9%	66.5%
平成28年度	610,001	134,186,801	449,704	56,711,527	73.7%	42.3%	519,443	78,783,021	423,517	51,852,675	81.5%	65.8%
平成27年度	591,381	129,424,092	432,934	54,138,702	73.2%	41.8%	501,394	76,093,826	406,569	49,514,326	81.1%	65.1%
平成26年度	582,115	130,790,921	421,868	52,653,631	72.5%	40.3%	489,889	74,135,778	395,211	48,009,518	80.7%	64.8%
平成25年度	676,685	148,635,889	499,315	61,997,159	73.8%	41.7%	579,469	87,633,178	470,778	57,125,351	81.2%	65.2%
平成24年度	616,510	135,454,057	449,936	55,550,724	73.0%	41.0%	522,937	79,483,121	422,664	51,060,193	80.8%	64.2%
平成23年度	585,930	127,292,010	428,870	52,915,220	73.2%	41.6%	498,405	75,872,372	402,888	48,609,170	80.8%	64.1%
平成22年度	582,139	122,283,007	428,541	52,799,997	73.6%	43.2%	495,575	74,073,871	402,628	48,593,546	81.2%	65.6%
平成21年度	538,220	113,196,104	392,956	48,802,503	73.0%	43.1%	454,526	68,029,301	366,567	44,946,751	80.6%	66.1%
平成20年度	605,467	151,393,221	431,029	54,669,975	71.2%	36.1%	505,529	86,414,176	401,524	50,313,910	79.4%	58.2%
15年計	8,826,985	1,937,187,809	6,524,309	808,068,422	73.9%	41.7%	7,514,369	1,128,864,167	6,134,233	740,789,967	81.6%	65.6%
15年平均	588,466	129,145,854	434,954	53,871,228	73.9%	41.7%	500,958	75,257,611	408,949	49,385,998	81.6%	65.6%

年 度	うち事務所						うち店舗					
	全 数		うち木造		木造化率		全 数		うち木造		木造化率	
	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率
令和4年度	10,108	6,003,064	3,784	567,404	37.4%	9.5%	5,737	4,266,131	1,825	249,148	31.8%	5.8%
令和3年度	10,763	7,591,415	3,851	540,522	35.8%	7.1%	5,492	4,186,860	1,632	215,184	29.7%	5.1%
令和2年度	10,312	6,088,179	3,889	561,194	37.7%	9.2%	5,059	4,062,185	1,426	204,719	28.2%	5.0%
令和元年度	11,582	6,526,707	3,881	560,455	33.5%	8.6%	6,289	4,151,476	1,846	268,248	29.4%	6.5%
平成30年度	11,090	6,087,954	3,838	546,787	34.6%	9.0%	7,384	5,213,313	1,873	264,488	25.4%	5.1%
平成29年度	11,413	6,680,818	3,962	590,053	34.7%	8.8%	7,856	5,530,444	2,120	286,254	27.0%	5.2%
平成28年度	11,273	6,688,331	3,741	519,735	33.2%	7.8%	8,346	5,614,685	2,053	294,595	24.6%	5.2%
平成27年度	11,039	6,124,328	3,675	504,423	33.3%	8.2%	8,603	6,052,274	2,212	304,420	25.7%	5.0%
平成26年度	10,547	6,187,376	3,488	469,466	33.1%	7.6%	9,512	7,147,226	2,209	302,445	23.2%	4.2%
平成25年度	10,552	6,274,195	3,214	433,675	30.5%	6.9%	10,118	8,350,260	2,478	318,083	24.5%	3.8%
平成24年度	10,480	6,123,351	3,063	394,124	29.2%	6.4%	9,674	7,433,253	2,419	302,263	25.0%	4.1%
平成23年度	9,707	5,831,004	2,793	362,239	28.8%	6.2%	8,422	5,197,338	2,323	285,675	27.6%	5.5%
平成22年度	9,402	5,547,843	2,656	318,990	28.2%	5.7%	7,495	5,744,663	2,228	279,998	29.7%	4.9%
平成21年度	8,988	7,061,203	2,563	295,789	28.5%	4.2%	7,868	5,526,425	2,255	269,535	28.7%	4.7%
平成20年度	12,182	8,581,081	3,251	379,534	26.7%	4.4%	9,591	8,278,476	2,613	323,922	27.2%	3.9%
15年計	159,438	97,396,849	51,649	7,044,390	32.4%	7.2%	117,446	86,755,009	31,512	4,158,977	26.8%	4.8%
15年平均	10,629	6,493,123	3,443	469,626	32.4%	7.2%	7,830	5,783,667	2,101	277,265	26.8%	4.8%

年 度	うち学校の校舎						うち病院・診療所					
	全 数		うち木造		木造化率		全 数		うち木造		木造化率	
	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率	全棟数	床面積 (㎡)	棟数	床面積 (㎡)	棟数比率	床面積比率
令和4年度	1,708	2,491,071	141	63,851	8.3%	2.6%	1,727	1,879,670	912	198,004	52.8%	10.5%
令和3年度	1,652	1,938,445	170	57,791	10.3%	3.0%	1,735	2,131,839	829	194,308	47.8%	9.1%
令和2年度	1,727	2,237,182	219	94,592	12.7%	4.2%	1,752	1,833,263	906	205,893	51.7%	11.2%
令和元年度	1,954	2,268,603	247	80,044	12.6%	3.5%	1,744	2,065,092	956	209,954	54.8%	10.2%
平成30年度	2,062	2,483,990	259	89,129	12.6%	3.6%	1,897	1,636,793	944	189,335	49.8%	11.6%
平成29年度	2,256	2,344,278	226	100,770	10.0%	4.3%	1,907	2,104,305	946	217,568	49.6%	10.3%
平成28年度	2,417	3,107,890	224	84,984	9.3%	2.7%	2,081	2,773,776	934	195,500	44.9%	7.0%
平成27年度	2,815	3,684,777	286	121,183	10.2%	3.3%	2,123	2,709,233	946	189,926	44.6%	7.0%
平成26年度	3,433	4,186,500	334	116,516	9.7%	2.8%	2,242	3,372,358	940	184,912	41.9%	5.5%
平成25年度	3,842	4,800,318	293	93,630	7.6%	2.0%	2,752	4,153,420	1,079	204,543	39.2%	4.9%
平成24年度	3,638	4,582,279	336	109,640	9.2%	2.4%	2,497	3,724,578	897	165,353	35.9%	4.4%
平成23年度	3,600	4,413,625	270	74,582	7.5%	1.7%	2,463	4,575,080	839	159,586	34.1%	3.5%
平成22年度	3,892	4,401,027	291	92,091	7.5%	2.1%	2,445	3,513,206	860	165,880	35.2%	4.7%
平成21年度	3,641	4,278,060	253	78,123	6.9%	1.8%	2,246	2,291,355	903	158,154	40.2%	6.9%
平成20年度	3,126	3,973,980	214	74,525	6.8%	1.9%	2,254	2,311,694	937	164,661	41.6%	7.1%
15年計	41,763	51,192,025	3,763	1,331,451	9.0%	2.6%	31,865	41,075,662	13,828	2,803,577	43.4%	6.8%
15年平均	2,784	3,412,802	251	88,763	9.0%	2.6%	2,124	2,738,377	922	186,905	43.4%	6.8%

出典：国土交通省 建築着工統計調査



都道府県別木造化率(4用途の15年分合計値)

表2 着工建築物：都道府県別の用途別木造化比率(建築物の棟数)

都道府県	H20～R4(年度)											
	事務所			店 舗			学校の校舎			病院・診療所		
	全棟数	うち木造	木造化率	全棟数	うち木造	木造化率	全棟数	うち木造	木造化率	全棟数	うち木造	木造化率
北海道	8,000	3,434	42.9%	5,002	2,271	45.4%	1,358	206	15.2%	1,279	565	44.2%
青森	1,540	840	54.5%	1,277	315	24.7%	362	57	15.7%	292	150	51.4%
岩手	2,449	1,186	48.4%	1,512	412	27.2%	609	152	25.0%	408	223	54.7%
宮城	5,316	1,924	36.2%	1,806	471	26.1%	1,088	139	12.8%	712	399	56.0%
秋田	1,731	1,016	58.7%	1,233	408	33.1%	293	87	29.7%	303	184	60.7%
山形	1,697	899	53.0%	1,518	550	36.2%	396	45	11.4%	355	198	55.8%
福島	3,937	1,592	40.4%	2,480	749	30.2%	790	98	12.4%	488	258	52.9%
茨城	5,217	1,925	36.9%	3,307	1,141	34.5%	974	105	10.8%	900	485	53.9%
栃木	3,376	1,351	40.0%	2,406	783	32.5%	514	89	17.3%	624	353	56.6%
群馬	3,544	1,598	45.1%	2,611	913	35.0%	697	50	7.2%	753	404	53.7%
埼玉	6,771	2,262	33.4%	5,605	1,521	27.1%	1,305	105	8.0%	1,490	635	42.6%
千葉	6,341	1,938	30.6%	4,380	1,022	23.3%	1,449	136	9.4%	1,091	455	41.7%
東京	11,889	1,401	11.8%	8,556	1,143	13.4%	2,571	69	2.7%	1,413	375	26.5%
神奈川	5,957	1,359	22.8%	4,387	865	19.7%	2,377	186	7.8%	1,139	398	34.9%
新潟	3,847	1,698	44.1%	3,105	1,276	41.1%	650	60	9.2%	645	390	60.5%
富山	1,688	618	36.6%	1,297	361	27.8%	390	18	4.6%	350	146	41.7%
石川	1,799	699	38.9%	1,728	590	34.1%	304	19	6.3%	342	201	58.8%
福井	1,460	596	40.8%	1,175	395	33.6%	244	22	9.0%	223	111	49.8%
山梨	1,254	496	39.6%	1,056	279	26.4%	387	32	8.3%	321	172	53.6%
長野	2,978	1,204	40.4%	2,198	609	27.7%	946	98	10.4%	749	395	52.7%
岐阜	2,402	889	37.0%	2,108	371	17.6%	891	70	7.9%	800	423	52.9%
静岡	5,898	1,594	27.0%	4,615	1,249	27.1%	977	50	5.1%	1,195	581	48.6%
愛知	9,043	2,324	25.7%	8,398	2,175	25.9%	2,142	112	5.2%	2,557	1,117	43.7%
三重	2,872	841	29.3%	2,094	629	30.0%	534	38	7.1%	548	243	44.3%
滋賀	2,154	710	33.0%	1,626	495	30.4%	541	31	5.7%	434	244	56.2%
京都	2,514	689	27.4%	1,919	395	20.6%	1,352	111	8.2%	546	189	34.6%
大阪	7,291	1,477	20.3%	5,577	927	16.6%	2,284	65	2.8%	1,334	392	29.4%
兵庫	5,469	1,312	24.0%	4,323	1,171	27.1%	1,984	200	10.1%	1,122	425	37.9%
奈良	1,210	404	33.4%	1,055	242	22.9%	407	15	3.7%	303	109	36.0%
和歌山	1,359	491	36.1%	901	219	24.3%	481	51	10.6%	283	158	55.8%
鳥取	890	385	43.3%	716	200	27.9%	366	45	12.3%	218	113	51.8%
島根	1,076	462	42.9%	698	210	30.1%	276	54	19.6%	232	121	52.2%
岡山	2,449	710	29.0%	1,796	378	21.0%	1,167	66	5.7%	625	267	42.7%
広島	3,311	855	25.8%	2,269	329	14.5%	1,277	103	8.1%	689	220	31.9%
山口	2,294	678	29.6%	1,427	361	25.3%	655	69	10.5%	497	253	50.9%
徳島	869	277	31.9%	855	263	30.8%	310	29	9.4%	284	98	34.5%
香川	1,544	497	32.2%	1,214	320	26.4%	607	4	0.7%	389	146	37.5%
愛媛	1,901	617	32.5%	1,297	305	23.5%	619	116	18.7%	425	162	38.1%
高知	926	305	32.9%	826	282	34.1%	417	83	19.9%	194	70	36.1%
福岡	7,315	2,555	34.9%	5,534	1,683	30.4%	1,879	142	7.6%	1,777	817	46.0%
佐賀	1,636	581	35.5%	1,278	427	33.4%	557	86	15.4%	402	177	44.0%
長崎	1,853	719	38.8%	1,422	473	33.3%	427	45	10.5%	398	137	34.4%
熊本	3,077	1,061	34.5%	2,245	675	30.1%	1,077	122	11.3%	843	318	37.7%
大分	2,051	861	42.0%	1,508	542	35.9%	581	58	10.0%	480	164	34.2%
宮崎	2,307	1,079	46.8%	1,348	408	30.3%	668	150	22.5%	484	202	41.7%
鹿児島	3,098	1,191	38.4%	1,959	626	32.0%	667	73	10.9%	602	175	29.1%
沖縄	1,838	49	2.7%	1,799	83	4.6%	916	2	0.2%	327	10	3.1%
全国計	159,438	51,649	32.4%	117,446	31,512	26.8%	41,763	3,763	9.0%	31,865	13,828	43.4%
標準偏差			9.1			7.3			5.9			10.6

出典：国土交通省 建築着工統計調査（再掲）部分を再集計

日本の世界遺産 探訪



OURA CHURCH

「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、2018年に日本で22件目の世界遺産に登録されている。徳川幕府の禁教令から250年にわたって信仰を守り続けた潜伏キリシタンの歴史を辿ることのできる貴重な足跡である。

今回の世界遺産探訪は、潜伏キリシタンとキリスト教神父が出会った“信徒発見”の舞台となった「大浦天主堂」についてご紹介しよう。

長崎県 大浦天主堂

日本で殉教した二十六守護聖人を祀る最古のキリスト教会

「大浦天主堂」は、長崎港に面した高台に、幕末の元治元年(1864年)に創建された現存する日本最古のキリスト教会である。大浦南山手地区は外国人居住区であり、在留外国人のためにフランス宣教会の神父が信仰の拠点をつくったのが始まりとされる。

この教会の建設工事は、神父により示された設計図面をもとに、天草出身の大工棟梁・小山秀之進が現場の指揮にあたった。キリスト教会らしい鋭い尖塔を持つゴシック風の外観ではあるが、煉瓦造りの外壁は漆喰で白く塗られ、正面上部には仏教寺院の扁額にみられるような「天主堂」の文字が記されている。天主堂内部は本格的なリブ・ヴォールト天井で、荘厳な三廊式の構造である。

この天主堂の正式名称は「日本二十六聖殉教者聖堂」という。二十六聖殉教者とは、豊臣秀吉のキリシタン弾圧によって捕縛され、長崎西坂の丘で磔刑に処された外国人聖職者6名・日本人信徒20名ことで、ローマカトリック教皇・ピオ九世により聖人の尊称が献上された。教会は、この日本二十六聖殉教者を守護聖人として祀っており、彼らの殉教地である西坂の丘の方角に向けて建てられている。

天主堂の聖母像の前で起きた“信徒発見”の奇跡

大浦天主堂の献堂式(新築の会堂を神にささげる儀式)は、元治二年(1865年)二月に、フランス領事をはじめ、長崎港内に停泊中のフランス、ロシア、オランダ、イギリス各国の軍艦艦長臨席のもとに荘厳に挙行され、各国の軍艦が落成を祝って盛大に祝砲を打ち鳴らしたという。

そして翌月の三月十七日正午過ぎ、天主堂の門の前に15人ほどの農民風の団がやってきた。神父が対応に出

ると、一人の婦人が「ここにおります浦上の者どもは、皆あなた様と同じ心でございます」と告白し、聖母像の前に案内すると「サンタ・マリアさまだ」と口々にささやいたという。

豊臣秀吉とそれに続く徳川幕府のキリスト教禁教令は250年に及んだが、浦上のキリシタン集落では、表面は仏教徒を装いながら、しかし内にはキリストへの熱い信仰心をもって、実に七世代にわたって固有の信仰を守り通してきたというのである。その後、五島、外海など長崎県の各地からも噂を聞きつけた潜伏キリシタンたちが名乗りを上げてきた。

世界宗教史に残る奇跡の“信徒発見”のできごとは、天主堂の聖母像の前で行われた。そのため、この聖母像は「信徒発見のマリア像」と呼ばれるようになった。



[大浦天主堂 拝観案内]

所在地：〒850-0931 長崎市南山手町5-3
電話：095-823-2628
拝観時間：8時30分～18時30分(冬季は17時30分)
拝観料：大人1,000円、中高生400円、小学生300円

世界遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」登録概要

構成資産：平戸の聖地と集落、黒島の集落、外海の出津集落、外海の大野集落、大浦天主堂、原城跡、天草の崎津集落、久賀島の集落、奈留島の江上集落、頭ヶ島の集落、野崎島の集落跡

所在地：長崎県長崎市・佐世保市・平戸市・五島市・南島原市・小値賀町・新上五島町、熊本県天草市

記載年：平成30年(2018年)

区分：文化

登録基準：1.本資産は、長崎と天草地方の潜伏キリシタンが禁教期に密かに信仰を継続する中で育んだ独特の宗教的伝統を物語る証拠である
2.禁教期の潜伏キリシタンが自らの信仰を密かに継続する中で育んだ固有の信仰形態、大浦天主堂における「信徒発見」を契機とする新たな信仰の局面及び固有の信仰形態の変容・終焉が表されている

会員会社ニュース
がんばる企業

近鉄不動産株式会社

近鉄大和西大寺駅前に 人と街と緑が交わるコミュニティの広場として 「Coconimo SAIDAIJI(ここにも西大寺)」誕生!

近鉄・奈良線、京都線、橿原線、3つの路線が平面交差する私鉄有数のジャンクションとして賑わう「大和西大寺駅」。その南口駅前広場の前に2023年4月28日、芝生の広場を囲むように木造平屋の店舗が建ち並ぶ商業施設が誕生しました。その名も「Coconimo SAIDAIJI(ここにも西大寺)」。開発に当たった近鉄不動産株式会社事業開発本部の奥啓介氏と明里康弘氏に、その開発経緯やコンセプトをお聞きました。

芝生の緑に映える“べんがら色” 木造ならではの“あrawし構造”も取り入れて

「商業ビルやマンションの多い西大寺という地域に、自然に触れながら市民が憩い、グルメも楽しめるコミュニティ広場的なエリアを創りたかった」と話すのは、コンセプト作りから企画に携わった明里氏。駅前の一等地でコンクリートのビルに囲まれながら、緑の芝生の周囲にプランター



企画、設計に携わった明里康弘氏(左)と奥啓介氏(右)

の花壇をあしらい、広場を巡る回廊の柱や庇は天然木のあrawし構造で、たっぶり自然を感じることができます。

名前の由来について「これまで商業施設は駅の北側に集中しがちでしたが、南側の再開発によって“ここ(here)”にも賑わいと魅力あふれる街・西大寺があるよ」とアピールすると同時に“個々に輝きを放つ多彩なテナントが集まっている”ことを表し



木のあrawし構造を取り入れた回廊



夜景

ている」と言います。

芝生を取り囲む商業スペースは4棟からなる木造平屋建てと、軽量鉄骨造平屋建てが1棟で、外壁の赤茶色ともいえるカラーが印象的です。設計デザインに携わった奥氏によると「奈良は日本でも最も歴史ある古都の一つ。多くの寺社仏閣に用いられている“べんがら”をイメージ」したとのことで、芝生の緑とのコントラストが際立っています。夜になると暖色系の照明に照らされ、昼間の賑わいとは一味違った雰囲気漂わせています。

こころ安らぐ地域の交流拠点として 住まいの相談“ワンストップ対応”や セミナー会場も

「Coconimo SAIDAIJI」には、6つの飲食店舗と、近鉄不動産の「住まいと暮らしのぷらっとHOME 西大寺」が芝生の広場を囲んでいます。「住まいと暮らしのぷらっとHOME」は、住まいに関するあらゆる相談や、不動産売買から税金、耐震診断まで、地域住民が気軽に立ち寄れる住

まいのワンストップ窓口でもあります。落ち着いたロビーにはカフェコーナーもあり、40人収容の本格的なセミナールームと、明るい陽光が降り注ぐワークショッブコーナーでは、趣味の会やフィットネス、相続や終活、海外の情報など“人生100年時代”に向けた講座の数々が毎日開催されています。このスペースは地域の方々への貸し出しも行われています。



「住まいと暮らしのぐらっと HOME 西大寺」ロビー

また、飼い主自身が愛犬を洗うための設備を整えた「ドッグスパ」もマンション暮らしの住民たちに喜ばれています。取材に行った6月中旬には雨に洗われた芝生がひととき瑞々しく、子どもたちがはしゃいだり、それをほほえましくベンチで見ているお年寄りの姿も…。「Coconimo SAIDAIJI」が着実に地域の生活に溶け込んでいつていることが見て取れました。



大型スクリーンやプロジェクターを装備したセミナールーム



車いすで訪れる家族連れも。市民の安らぎの場として



近鉄不動産株式会社

大阪市天王寺区上本町 6-5-1
TEL. 06-6776-3001（代表）

「Coconimo SAIDAIJI」

- 所在地：奈良市西大寺南町5-5
- 開業日：2023年4月28日
- 敷地面積：約1,483㎡
- 延べ床面積：約564㎡
- 規模：木造平屋建て4棟、軽量鉄骨造平屋建て1棟
- ホームページ：<https://www.kintetsu-re.co.jp/coconimo-saidaiji/>

21都府県と 「木造応急仮設住宅に関する協定」 を締結

木住協は、各都道府県との間で「災害時における木造応急仮設住宅の建設に関する協定」の締結を急いでいるが、令和5年になり、3月23日に宮城県・仙台市と、6月9日には埼玉県・さいたま市との「災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定」を締結した。締結をした各自治体で災害が発生した場合、県地域防災計画などに基づいて木造応急仮設住宅を迅速に建設するための協定となる。2013年の静岡県を皮切りに、令和5年6月現在21都府県との締結をしたことになった。

震災や豪雨による災害が多発する中、大規模災害対策の重要性がより一層高まっています。当協会では、各地域に組織する支部の会員企業中心に都道府県・救助実施市と「災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定」の締結を推進している。

災害が発生した際、協定を締結した都道府県の要請を受けて、一刻も早く木造応急仮設住宅を建設するために、『木住協応急仮設住宅供給対応マニュアル』を活用し、迅速かつ安定的に供給できる体制づくりを進めている。

令和5年6月までに、全国の21都府県・市と協定を締結しており、各自治体との会議にて、配置計画等の打合せを進め、災害発生時への迅速な対応が出来るよう進めている。

また、現在7つの道府県と締結に向け協議中で、今後も、全国の自治体と協議を続け、締結に向けた活動を推進していく。

No	締結日	都道府県
1	2013/4/9	静岡県
2	2018/2/14	福岡県
3	2018/3/19	熊本県
4	2018/5/9	和歌山県
5	2018/5/24	神奈川県
6	2018/12/3	山形県
7	2019/2/28	大阪府
8	2019/3/26	愛媛県

No	締結日	都道府県
9	2019/4/17	岐阜県
10	2019/5/16	徳島県
11	2019/6/4	高知県
12	2019/6/25	香川県
13	2019/10/1	三重県
14	2019/10/17	東京都
15	2019/12/10	佐賀県
16	2020/2/28	長崎県

No	締結日	都道府県
17	2020/3/19	愛知県
18	2022/1/7	兵庫県
19	2022/6/17	福島県
20	2023/3/23	宮城県



北海道支部 視察レポート

（一社）日本木造住宅産業協会 北海道支部では、設立以来初めて、道外への視察を実施し、三重県の伊勢神宮からVISONを巡りました。

伊勢の神宮

「お伊勢さん」と親しまれる伊勢の神宮は、二千年という悠久の歴史を有し、日本人の「心のふるさと」といわれ、皇室の御祖神をお祭りする神社として、また日本人の総氏神的存在として、全国から深い崇敬を集めています。正式名称は「神宮」といい、皇大神宮（内宮）、豊受大神宮（外宮）の両正宮をはじめ、十四所の別宮、百九所の摂社、末社、所管社、合わせて百二十五社の総称です。これらのお宮お社は、広く伊勢・松阪・鳥羽・志摩の四市、度会・多気



神宮式年遷宮

式年遷宮は、二十年に一度、お宮を隣接する御敷地に新たに建て替え、御装束神宝も全て新調して、神様にお遷りを願う、他に類を見ない壮大なお祭りです。両正宮においては、約八年をかけ三十以上のお祭りや行事を重ねて行います。その起源は古く、天武天皇のご宿願により、持統天皇四年に第一回遷宮が内宮で行われました。外宮ではその二年後に斎行。以来約千三百余年、式年遷宮は、戦乱により延引せざるを得ない苦難の時代を乗り越え、現在も営々と続けられ、平成二十五年秋、第六十二回神宮式年遷宮が執り行われました。

VISON

2021年7月に三重県多気町で開業した商業複合施設です。住友林業グループはH.I.Sグループと共に、その中心となる宿泊施設「HOTEL VISON」の開発・運営に参画しています。VISONは「100年、200年続く持続可能な商業リゾート施設でありたい」という想いで、最新技術の活用や三重県中南伊勢エ



リアの宿泊・観光施設との相互送客など、地域課題の解決と地域経済の活性化に取り組まれています。



北海道からの移動は時間を要しましたが、参加者全員が初めて伊勢神宮を訪れ、神聖な雰囲気を感じ、歴史の重みを感じ、身も心も清らくなりました。VISONでは、和モダ

ンをコンセプトに戸建て空間が魅力のヴィラ棟と、三次曲面の大屋根が特徴的な木造建造物のマルシェヴィゾンを見学しました。

第36回定時支部総会開催される

令和5年3月23日(木) 14時30分より名鉄グランドホテルにて中部支部の第36回定時支部総会が開催された。

前年度の事業報告及び収支報告、今年度の事業計画、新役員の承認などが滞りなく行われ、15時からは幹事会を開催。15時30分からは、気象予報士・キャスター・司会者・防災士であり、お城ガールとしても著名な久保井朝美氏を講師に迎え、記念講演会が開催された。

懇親会パーティ開催

16時45分から、懇親パーティが開催され、富山支部長の挨拶に続いて、国土交通省中部整備局住宅調整官若松宏一様のご祝辞、一般社団法人日本木造住宅産業協会本部専務理事 越海興一様のご祝辞、独立行政法人住宅金融支援機構東海支店長の山崎徳仁様のご乾杯のご発声で懇親パーティの幕が開けた。多くの出席者で賑わう会場では、和やかな雰囲気の中、参加者各位が懇親を深め、有意義な時間となった。中江副支部長の手締めにより締めくくられた。



乾杯のご発声をされる
独立行政法人 住宅金融支援機構東海支店
山崎 徳仁支店長

【ご出席いただいたご来賓の方々】

■国土交通省中部整備局

住宅調整官 若松 宏一様

■独立行政法人 住宅金融支援機構東海支店

支店長 山崎 徳仁様

■一般財団法人 愛知県建築住宅センター

副理事長 杉浦 泰輔様

■一般社団法人 日本木造住宅産業協会本部

専務理事 越海 興一様

資材・流通部長 青柳 博幸様

研修部長 青木 広美様

業務・広報部長 森松 克典様

特命担当部長 五十嵐 雅彦様



懇親会・支部長挨拶

一般社団法人 日本木造住宅産業協会

中部支部長 富山 拳男

本日は日本木造住宅産業協会中部支部懇親会に沢山の方のご臨席をたまわりまして、誠にありがとうございます。又先ほどご紹介をいただきましたご来賓の方々におかれましてもご多用の中ご臨席をいただきまして誠にありがとうございます。

私は中部支部支部長を3年前から拝命しております富山拳男と申します。出身は三交不動産です。この支部長を拝命してから一度も賀詞交歓会又総会がありませんでした、初めてのご挨拶をさせていただきます。今回初めてお会いさせていただく方もございます。ご挨拶が遅れまして申し訳ございません。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

さて私共からは先ほど総会でもお話しがございましたが、1年間、それとこの2、3年間を振り返ってみたいと思います。特に私が拝命してから支部の中で運営委員会というものがございます、年間の行事を実行していく会でございます。そこでどんな会にしようという話題があり、そこで決まったことを幹事で決めるという内容なんです、一昨年、昨年は、「やっぱりやめておこうか」、「無理だ」とか、「今やるべきではない」というご判断がほとんどでございました。ようやく昨年度になり、会員の方々の協力もいただきまして、このご時世でございますので、ウェブ会議、ウェブの研修という形での開催をさせていただきました。

昨年11月には歴史的建造物の見学会ということで長野県の松本城へ行ってきました。やっとここまで来たかなということでございます。また木肌会というゴルフを通じての懇親会であったり、近畿支部との懇親会ゴルフを通じての会がございますが、それは野外での活動でしたので定期的に、開催をさせていただきました。

また、OBの方々のご助言をいただくということで「温故会」がございます。それも2年間開催されませんでしたが、ようやく昨年の12月に開催していただき、

色々なご指導もいただきましてこの厳しい世の中、この状況の中でどういった対応をすればいいかということも教えていただきました。今私たちが置かれている状況というのは非常に厳しく、又すぐく

変動が激しいという状況でございます。こんな時こそ、この中部支部の会員の方々の中で、今年こそはという声もあり、色々な行事をやってまいります。そこで意見交換をし、情報交換をしながら、まずは会員各社様の繁栄のため、さらに木造住宅の普及促進、地域社会の貢献のために一生懸命頑張っていく所存でございます。会員の方々におかれましては今までとは違う、この木住協の中部支部を支えていただきまして、益々発展することを祈りながら頑張っていく所存でございます。結びになりますが会員の方々の益々の繁栄をお祈りいたしまして、甚だ簡単ではございますが、懇親会の前のご挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。



懇親会祝辞

一般社団法人 日本木造住宅産業協会本部

専務理事 越海 興一

只今ご紹介をいただきました本部の専務理事の越海でございます。本日の中部支部の総会が無事終了致しましたこと、誠におめでとうございます。

今日はちょっと早めに東京を出て、午前中から名古屋入りして、まず伏見駅にある碧海信用金庫の御園支店を見てまいりました。ここは隈研吾先生が初めて手がけた金融機関の建築で、設計施工は積水ハウスさんですが、飾りつけを木造でやったという感じで、木を優しく使った建物でした。

次に栄のカゴメさんの新社屋、なかなか綺麗な木の使い方、これもかなりお化粧として木材を使っています。

その後で丸の内へ回り、タマディックという精密機械の会社の本社ビルを見学。こちらはものすごい木造、木を使ったビルというのがよくわかります。

3件ともとてもいい見学をさせていただき、支部の事務局からご紹介頂いた物件がまだ沢山ありましたが、時間の都合上この3件にとどめさせていただきました。とてもいい経験をさせていただきました。

この3年間コロナで大変な目にあってますし、又住宅業界としてはウッドショックで、木材が急に手に入らなくなったり、その後、木だけではなくて半導体を含めて色んな物品が入手困難、さらに値上がりが見えてもかなり尾を引いています。

そのような状態の中でなんとか住宅着工数を保っている感じですが、近隣の色々な状況とか、ウクライナの戦争とか非常に先行不透明なところが多いですが、何とか支部の皆さんも一致協力してお客様のためにいい住宅を供給できればと期待をしているところでございます。

そういう形でまだ安定化していませんが、住宅着工ということを考えれば、日本の人口は2008年ごろには、すでに減り始めており、今年ぐらいから世帯も減少ということになっているのかもしれませんが。ですから将来的に住宅だけで食べていくというのは、我々の業界

非常に厳しいところがございます。

という訳で先ほど3件ほど見学をさせていただきましたが、一般的には中大規模木造ビルということで、コンクリートや鉄のビルがどんどん木造に

置き換わっていくという時代が、地球温暖化防止のためにも木を使おうということが世界的に広まっております。その先端に乗って我々業界も、住宅から建築ということで手を広げて木を使うということに貢献したいと思っております。

名古屋に限らず全国各地に色んな物件が出来ているのはご存知だと思います。特にこの支部は近畿支部と交流があり、是非大阪中心に近畿の方に足を運んで実物件を見て頂ければと思います。

それから隣の静岡県支部もありますし、神奈川も支部がありますので、又横の連携ということで、特に静岡、神奈川は応急仮設住宅の話が大分進んでおりますので、横関係を作りながら中部支部の応急仮設の働きも活性化させて頂ければと期待しております。

最後に今年の10月の住生活月間中央イベントは岐阜県岐阜市で行われます。中部支部の管内ということになります。場所が最近決まって、岐阜県庁や周辺で表彰式とか展示とか行う計画になっているそうです。当然我々の仲間にも岐阜県関係の会社はございますし、それを支える中部支部というふうに本部は見ております。まだ企画が動いている最中でございますが、出来ればこの10月の住生活月間には、岐阜県内の会社あるいは中部支部という形で、何らかの形で参加して頂けるような企画を作っていただけるといいなと思っております。予算の中では今回組んでおりませんが特別な形ということで本部の方で対応できるように致しますので、是非住生活月間のイベント企画というのを進めて頂ければと考えております。

それやこれやでコロナ開けには皆さんと一緒に活動することも増えてくると思いますが、本部も積極的にお付き合い致しますので是非お声がけください。

本日は本当におめでとうございます。





記念講演会

「人生100年時代どうする？ どう住まう？」

講師：気象予報士・キャスター・司会者・防災士
久保井朝美氏

通常総会の後、恒例の記念講演会が開催された。久保井氏は愛知県名古屋市で生まれ、岡崎市で高校生までを過ごした。その後、慶応義塾大学文学部を卒業され、学生時代より様々な放送局の番組でご活躍。大学在学中に日本テレビ系番組のお天気お姉さん兼アシスタントとして出演。大学卒業後は、長野放送にアナウンサー職で入社した。自然が豊かな長野県で過ごし、気象コーナーを担当したことで、気象への関心を深めた。

難関資格の気象予報士の資格を取得してからは、気象キャスターとしてテレビやラジオで活動し、全国各地で講演会もしている。

2021年には美人すぎるお天気キャスターランキング1位、2022年にはお天気キャスター総選挙で全国6位に選出された。2022年4月からはNHKのサタデーウオッチ9、ニュースウオッチ9に出演している。また、防災士の資格も活かして、災害への備えなどについても発信している。さらに歴女、お城が大好きな城ガールとして、様々なメディアでお城に関する企画出演や、記事の執筆を行うなど、活動の場を広げている。

今回は久保井朝美氏を講師に「仕事のこぼれ話」、「お城めぐりから住まいを考える」、「人生100年時代をどう暮らす？」の3テーマでお話をいただいた。

自己紹介ののち、最初は「仕事のこぼれ話」。近年はオンライン会議などによって身近になった、動画背景の合成のお話。また、気象キャスターであり気象予報士でもあるので、テレビに出ていない時間は、天気図の解析などをさ

れているとのこと。的確な情報をより分かりやすく伝えるためには、放送にいたる準備が重要であることが感じられた。

さらに、実は意外と知られていない言葉や表現についても触れられた。

引き続き、「お城めぐりから住まいを考える」という話を伺った。お城が好きで、全国のお城をめぐって見つけたことなどを紹介した。

当時の木造建築技術の最先端であるお城とその土地に応じた工夫点について木造建築の視点から「地のものを使う」、「その土地の気候に合ったものを使う」、時代によって「建築のトレンド」が変わるところなどに「住まう」を考えるきっかけがあると感じられることなど、各地のお城の違いについて紹介した。

例えば、降水量が多い地域のお城は雨樋が多く、水に強い漆喰を使うなど雨に強いお城づくりになっていたり、豪雪地のお城は寒さで瓦が割れないように工夫されたりしているなど。

江戸時代から残っている天守についても紹介した。木造建築ならではの美しさは外観だけでなく、内部にも見られる。木造建築は環境の側面からも、今後ますます価値が高まると感じているとお話しいただいた。

続いて「人生100年時代をどう暮らす？」をテーマとしたお話。

これからもどんどん変化のスピードが上がり、さらに加速していく可能性があることをお話しいただいた。

建築関係者にとっては、暑さ・雨・風に対する耐性がこれまで以上に必要になるのだろう。

最後には参加者からの質疑応答を受け、楽しく、役に立つ講演会が終了した。



新専務理事紹介

「木造建築への追い風を生かす活動を実現していきたい」と語る
専務理事に就任した加藤永氏

本年6月2日に越海興一・専務理事が退任となり、6月3日付けで、加藤永氏が後任の専務理事に就任した。都市開発・公共建造物の建設計画などに造詣が深く、国土交通省、東京都庁などの地方自治体、業界団体の要職を歴任してきた加藤永氏に、これまでの木造建築との関わりを伺うとともに、新専務理事としての抱負についてお話をいただいた。

豊富なキャリアを通して 木造建築への知見を深める

愛媛県新居浜市で生まれて、子供の頃に東京に引っ越してきたという加藤氏。父親が企業で営繕関係の仕事をしてきたため、子供の頃から家庭には計算尺や烏口などの器材があつて、建築には親しみやすい環境であつたという。早稲田大学理工学部建築学科に入学、卒業後は大学院で修士課程（建築・都市計画専攻）を修了。建築学科の教授が登山好きだったため、学生時代は穂高縦走をはじめ仲間たちとよく登山に出かけたことで、自然環境や樹木への興味が深まったそうである。

1985年に建設省（現国土交通省）入省後は、住宅局と都市局に在籍し、その間、東京都庁、兵庫県庁、千葉県庁ほか地方自治体にも出向した。長崎県庁に出向した際は、新県庁舎建設の責任者となり、外装に県産木材を使った設計デザインを推進した。

その後、内閣官房に出向し、隈研吾さんデザインの新国立競技場建設の各省庁との調整役を担った。その際に「木と鉄のハイブリッド」という設計理念を身近で感じる機会を得て、木材を使った大規模建造物の未来の可能性について知見を深めたという。

全国に地方支部のある 強みを生かした活動に取り組みたい

業界団体としては、リビングアムニティ協会（ALIA）に次いで、木住協は2つ目の協会である。前職の協会は、住宅建材メーカーを中心としてBtoBの会員企業がほとんどだったが、木住協については、住宅建材メーカー、流通企業のBtoBの会員企業とともに、地方の工務店ほかBtoCの会員企業に軸足を置いた団体である。また、全国に地方支

部のある協会というのは初めてなので、県産木材を使った建築物木造化推進など、この強みを生かした活動に取り組んでいきたいと考えている。



木造住宅業界が抱えている 課題に対して

現在、技術者不足が深刻になる「2024年問題」、木造新築住宅の減少傾向と住宅リフォームにおける木材建材の需要喚起など、木造住宅業界が抱えている課題は山積みではあるが、加藤新専務理事は、木住協本部として「昨今の木造建築への関心の高まりを追い風として、何ができるかを考え、これを実現していきたい」と抱負を語ってくださった。

協会内変革について

協会の仕事は多岐にわたるが、特に会員サービスの向上を念頭に置き、会員にメリットが出るような仕事を進めたい。その為に、仕事を一度棚卸してみる必要があると考えており、変えていかなければならない仕事、また新しい仕事等を議論していき、メリハリのある協会にしていきたいと考えている。

最後に、加藤新専務理事のプライベートについて伺った。転勤が多かったため、官舎での生活が長かったが、現在は中古の木造住宅をリフォームした自宅で、ご夫妻と猫の二人プラス一匹での暮らしだそうだ。若い頃からの酒豪で、近年はコロナ禍で自粛気味だったが、そろそろ居酒屋めぐりが復活の傾向にあるという。

新規会員紹介

2023年4月から6月までに入会されました企業を紹介します。みなさん、よろしくお願いします。

(株)ITBエンタープライズ

1種B正会員

常務取締役 向島 俊夫

木造注文住宅及びアパートの新築工事・不動産業全般

〒430-0926 静岡県浜松市中区砂山町324-8

TEL : 054-287-4388 FAX : 054-287-5528

<https://www.itb-hamamatsu.co.jp/>

アドバンス開発(株)

賛助会員

代表取締役社長 山根 慶之介

総合住宅展示場「なんば住宅博」をはじめ関西で四力所を運営しております。

〒553-0001 大阪府大阪市福島区海老江1-1-31

TEL : 06-6451-7788 FAX : 06-6451-7722

<https://www.jutakuhaku.co.jp>

坂口建築

賛助会員

坂口 国和

木造軸組工法を主とし、お客様のご要望に合った家作りを行っています。

〒869-4703 熊本県八代市千丁町新牟田1000

TEL : 0965-46-1658 FAX : 0965-46-1658

住友林業情報システム(株)

賛助会員

代表取締役 蜂屋 恭弘

木と生きる社会をシステムで支える、住友林業グループ唯一の戦略的IT企業

〒261-8501 千葉県千葉市美浜区中瀬1-3

幕張テクノガーデンB棟7階

TEL : 043-296-6834 FAX : 043-296-6853

<https://www.sumirin.co.jp/>

(株)ハ'家

1種B正会員

代表取締役社長 丹羽 敦

「らしく。」をモットーに、プロのアドバイザーがお客様のご希望に沿った土地を探し、プロのデザインチームがお客様に合ったプランを提供します。無理のないあなたらしいお家づくりを叶えることが出来ます。

〒451-0055 愛知県名古屋市西区堀越3-14-5

TEL : 052-528-3566 FAX : 052-528-3567

<https://iezukuri.nagoya>

(有)浜砂住建

1種C正会員

代表取締役 濱砂 貴弘

先代の「安全で良質な家を建てる」という理念を受け継ぎながら、資金計画や構造、素材などに関するお客様向けの新たな勉強会を開催しています。

〒889-1612 宮崎県宮崎市清武町岡3-1-5

TEL : 0985-85-5035 FAX : 0985-85-5064

<https://hamasuna.co.jp/>

(株)北洲

1種A正会員

代表取締役社長 村上 ひろみ

住宅、リフォーム、建設資材の3つの柱で事業を展開。未来を見据えた環境性能を含め、愛され続けて必要とされる『本物』を提供している。

〒024-0072 岩手県北上市北鬼柳23地割61-1

TEL : 022-348-3794 FAX : 022-348-3937

<https://www.hokushu.net/>

(株)マスターズ

1種C正会員

代表取締役 三木 孝行

地元密着で、新築木造住宅をメインに注文住宅を請け負っています。断熱、気密、換気の整った住環境と、愛着のわくライフスタイル提案にこだわっております。

〒485-0814 愛知県小牧市古雅3-22-12

TEL : 0568-68-9171 FAX : 0568-68-9173

<https://www.likehome-masters.com>

(株)丸産業

2種B正会員

代表取締役 丸 敏幸

近畿2府4県に8ヶ所の拠点があり、地場に密着した活動により、住設建材の提案販売物流をしている会社です。

〒634-0831 奈良県橿原市曽我町32-2

TEL : 0744-24-1728 FAX : 0744-24-6733

<https://www.marusangyou.co.jp>





〈滋賀県大津市〉

蘆花浅水荘

「蘆花浅水荘」は、明治から昭和にかけて活躍した関西日本画壇の巨匠・山元春挙の別邸として琵琶湖西岸に造られた。この広い屋敷地は、かつて琵琶湖の畔に直接面しており、舟遊びのための舟着き場もあったという。戦後に湖岸道路ができてその面影はないが、風雅な庭園とその西側に配された建物群は、春挙好みの遊び心を感じさせ、訪れる人の心を楽しませてくれる。

まず目を引くのは、裏千家の兜門を模した「表門」である。ここから路地風の前庭を通ると、春挙の居宅であった「主屋」に至る。「主屋」は、一階に居室と炊事場（土間）、二階に画室と応接室があり、東面に突き出た形で茶席「竹之間」がある。

そこから中庭を囲むように建つ「離れ」は、迎賓のためのもので、床の間のある十一畳の広間と六畳の仏間があり、東側の畳廊下を渡った先に茶席「莎香亭」と書斎「無尽蔵」、西側の畳廊下を渡った先に茶席「残月の間」がある。さらに渡り廊下を矩折れると「持仏堂」へと達する。

この「離れ」では、春挙が自ら描いた梅の襖絵を見ることができ、中庭の梅を花頭窓から望める春の風情に一層の華やぎを添え、芸術家の卓越した美意識を感じさせてくれる。「蘆花浅水荘」は、まさに、意匠・工法ともに優れた近代数寄屋建築の傑作といえるだろう。

蘆花浅水荘 国重要文化財

建 築	大正10年(1921)年
所 在 地	〒520-0837 滋賀県大津市中庄1丁目19-23
電 話	077-522-2183(記念寺)
入 園 料	500円 ※拝観は要予約(3日前までに)
開 園	午前10時～午後4時
休 園 日	年末年始
所 有 管 理	宗教法人 記念寺

<https://www.mokujukyo.or.jp>



一般社団法人

日本木造住宅産業協会



木 芽

2023年7月20日発行

Vol.185

発行人 加藤 永

編集 業務・広報部

〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビル WEST棟2階

電 話 03(5114)3010(代) FAX 03(5114)3020